

令和8年度 掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター

診療科別目標発表会

令和8年8月4日（火）17:30～19:00 大会議室

<診療科発表順>

- ① 総合内科
- ② 腎臓内科
- ③ 脳神経内科
- ④ 消化器内科
- ⑤ 循環器内科
- ⑥ 外科

- ⑦ 心臓血管外科
- ⑧ 整形外科
- ⑨ 脳神経外科
- ⑩ 小児科
- ⑪ 産婦人科
- ⑫ 泌尿器科

- ⑬ 皮膚科・皮膚腫瘍科
- ⑭ 眼科
- ⑮ 耳鼻いんこう科
- ⑯ 放射線診断科
- ⑰ 腫瘍放射線科
- ⑱ 麻酔科

- ⑲ リハビリテーション科
- ⑳ 病理診断科
- ㉑ 歯科口腔外科
- ㉒ 救急科
- ㉓ 企業長





中期目標(2025年度～2029年度)

2025年4月1日

掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター
企業長兼院長 宮地 正彦

中東遠総合医療センターが、中東遠地域の基幹病院としてすべての人に質の高い医療を提供し、愛され信頼される病院となるため、次のとおり中期目標を定め、全職員が一丸となって達成に向け努力することを決意する。

1 地域医療への貢献

- 1) 全科の医師を充足させる
- 2) 救急医療をオール中東遠で支える
- 3) 地域がん診療連携拠点病院として地域完結型のがん診療体制の構築に貢献する
- 4) 脳血管疾患及び循環器疾患の拠点として更なる体制強化を図る
- 5) 圏域内の機能分担と連携強化を推進し、将来に向けた地域包括ケアシステムの体制構築に貢献する
- 6) トップクラスの人間ドック機能を確立し、病気の予防・早期発見・早期治療に貢献する
- 7) DXの推進とIT、AIの積極的な活用により、診療支援の強化と業務改善を実現する
- 8) スポーツ医療センターの開設を目指す
- 9) 国際病院評価機構(JCI)の認定取得を目指す
- 10) 経常収支の黒字化を達成し、持続可能な病院運営を実現する

2 誇りと働きがいを持てる病院の創造

- 1) 市民に愛され信頼される病院になる(患者満足度の向上)
- 2) 職員一人ひとりが接遇力向上の意識を持ち、患者さまに安心と信頼を提供する
- 3) 職員が誇りと働きがいを実感できる環境を創る(職員意欲・満足度の向上)
- 4) 職員間の心理的安全性を高め、組織全体のパフォーマンス向上を図る
- 5) すべての職種で働き方改革を推進し、A水準を確実に達成する
- 6) 県内屈指の急性期病院として中東遠ブランドを醸成する

3 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

- 1) 優秀な初期研修医のフルマッチを継続的に達成する
- 2) 専攻医(3～5年目の医師)を20名以上にする
- 3) 内科・皮膚科・救急科に加えて、外科・整形外科・小児科・麻酔科の専門研修基幹施設になる
- 4) すべての職種において教育・研修体制の更なる強化を図り、医療の質向上と専門性の向上を実現する
- 5) すべての職種において専門資格、認定資格等の有資格者を増やす

掲 示 日	令和7年4月1日
掲 示 期 限	次回改訂時
掲 示 責 任 者	経営戦略室



2026年度 運営目標

2026年4月7日

掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター
企業長 宮地 正彦
院 長 堀田 喜裕

1 地域医療への貢献

- 1) 医師充足への一定の道筋を付ける
(総合診療科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、血液・腫瘍内科、救急科)
- 2) がん診療連携拠点病院として更なるがん診療機能の向上を図る
 - ・がん登録件数を1,270件/年以上とする
 - ・悪性腫瘍の手術件数を750件/年以上とする
 - ・外来化学療法件数を4,500件/年(19件/日)以上とする
 - ・放射線照射件数を6,000件/年(25件/日)以上とする
 - ・緩和ケアチーム新規介入件数を300件/年以上とする
 - ・がん遺伝子パネル検査の実施件数を10件/年以上とする
 - ・急性期から在宅への円滑な移行体制を構築する
- 3) 1日当たりの入院患者を425人以上とする
- 4) 1月当たりのECU稼働率を95%以上(14床稼働)とする
- 5) 手術件数(手術室内)を6,700件/年(560件/月)以上とする
 - ・全身麻酔件数を2,500件/年以上とする
 - ・腹腔鏡下又は胸腔鏡下手術件数を450件/年以上とする
 - ・手術支援ロボット(da Vinci)の手術件数を180件/年以上とする
- 6) 手術件数(血管造影室内)を1,300件/年(110件/月)以上とする
- 7) 紹介件数を25,000件/年(2,085件/月)以上とする
- 8) 人間ドック・健診センターの受診者数を20,500件/年(85件/日)以上とする
 - ・人間ドック55件/日以上、健康診断・協会けんぽ30件/日以上とする
 - ・がんに関連する要精密検査(D判定)対象者の受診率を85%以上とする
- 9) DXの推進により、IT・AIを活用した診療支援の強化及び業務効率化を図る
 - ・スマートフォン及びGoogle Workspaceの活用を促進する
 - ・RPA(Robotic Process Automation: パソコン上の定型業務を自動化する仕組み)を3部門以上に導入し、定型業務の自動化を図る
 - ・説明動画を3業務以上に導入し、患者説明及び職員業務の標準化を図る
 - ・すべての会議・委員会において、ペーパーレスで実施可能な体制を構築する
- 10) 将来に向けた病院整備計画を確実に推進する
- 11) 医業収益を2025年度比10億円増収させ、経常収支の黒字化を達成する

2 誇りと働きがいを持てる病院の創造

- 1) 入院の患者満足度を4.55以上とする
- 2) 外来の患者満足度を4.10以上とする
- 3) 外来患者の診察待ち時間1時間以内の割合を85%以上とする
- 4) 外来患者の会計待ち時間10分以内の割合を90%以上とする
- 5) ハラスメントを撲滅し、心理的安全性を高めることで、働きやすい職場環境をつくる
 - ・職員意識調査の「意欲度」を68.5以上、「満足度」を68.0以上、「上司との関係性」を71.0以上、「職員同士のコミュニケーション」を70.0以上とする
- 6) すべての職員の時間外勤務を月60時間以下とする
- 7) すべての職員が年次有給休暇を5日以上確実に取得し、リフレッシュ休暇7日を取得する

3 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

- 1) 優秀な初期研修医のフルマッチを継続する
- 2) 当院で研修する専攻医を7人以上確保する
- 3) 初期研修及び専門研修における魅力的な研修プログラムを再構築する
- 4) 専門医制度基幹施設となる領域数を6領域に増やす
- 5) 病院総合医の育成を推進し、10人以上増加させる
- 6) すべての職種において教育プログラムを実践し、体系的な人材育成を図る
- 7) すべての職種において有資格者を増加させる
 - ・Sランク1人、Aランク4人、Bランク6人増加させる
- 8) 病理解剖を上半期6件、下半期6件以上実施する

掲 示 日	令和6年4月7日
掲 示 期 限	令和9年3月31日
掲 示 責 任 者	経営戦略室



令和8年度 診療科目目標発表



総合内科

General Internal Medicine

0

総合内科

		氏 名	所 属
研修医初診外来	木曜	大瀬 綾子	総合内科
	木曜	城向 裕美子	循環器内科
	金曜	城向 賢	代務医師（かわしろ医療クリニック）

		氏 名	所 属
漢方外来	月火水金	大瀬 綾子	総合内科

		氏 名	所 属
膠原病外来	火曜	西尾 信一郎	代務医師（伊達医院）
	隔週木曜	大村晋一郎	代務医師（聖隷浜松病院 膠原病リウマチ内科）

1

総合内科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R4	R5	R6	R7	R8目標
外来初診患者数（人／月）	48	33	23	23	
研修医初診外来（人／年）				113	120
漢方外来患者数（人／年）	3,155	3,118	3,178	3,130	3,000

2

総合内科

令和8年度 目標

2 経営改善

	項 目	目 標
1	研修医教育の充実	患者さん、研修医がともに満足できる外来 → 初期研修医の獲得
2	常勤医師の増加	東洋医学会指定研修施設への登録 → 漢方専門医を目指す医師の赴任

3

3 医療の質向上 基幹病院の内科としての機能向上

<研修医教育>

- ・14名/年の研修医の内科初診外来をマンツーマンで指導
- ・診断困難な紹介患者
- ・時間をかけて丁寧に診察できる貴重な機会



4

【漢方外来】

- ・年間のべ3,000人を診療
- ・7割が院内からの紹介
循環器、消化器、呼吸器、脳神経内科、皮膚科、口腔外科、耳鼻科、泌尿器科、眼科、外科、脳神経外科、整形外科、産婦人科、小児科、リハビリテーション科、麻酔科
など多数の科からの紹介で様々な症状/疾患を治療
- ・院外からの紹介で多いのはコロナ後遺症関連

5

【コロナ後遺症：外来患者の治療成績】

<2021年9月～2025年11月>

コロナ後遺症 約 400 例

うち通勤通学が全くできない
重症 約 145 例うち治療継続 104 例
(精神疾患等により約40例が中止/転院)

【治療成績】

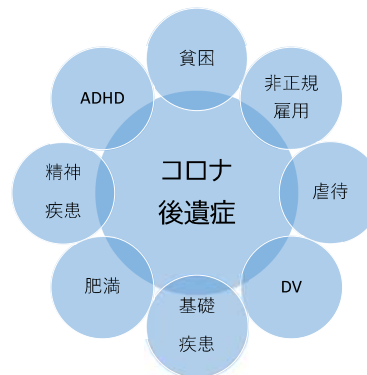
重症104例中
86%が社会復帰に成功

フルタイム復帰	80例(77%)
時短復帰	9例(9%)
療養中	15例(14%)

(2026/7/1現在)

6

【「身体的精神的健康状態が不良」は後遺症のリスク因子】



重症後遺症 150例中

退職/退学 41例(27%)

障害年金	8例(申請中2例)
障害者手帳	2例
自己破産	1例
生活保護	1例

[虐待事例]



行政・職場・学校など関係機関との連携し社会復帰を目指す

採算だけでは提供されにくい医療を地域に提供

7

【コロナ後遺症：当院職員の治療成績】

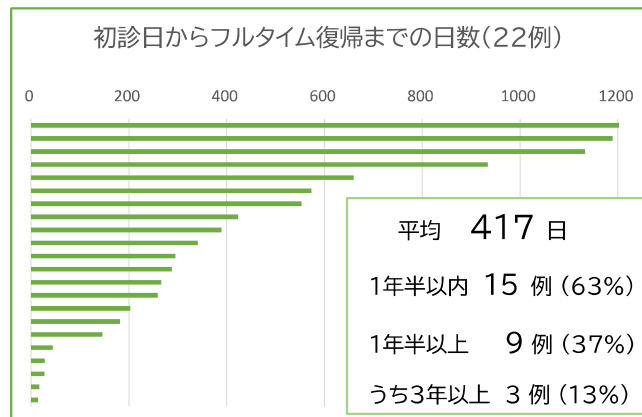
【当院職員】

1200名中24名(2%)が休職

96%が職場復帰に成功

フルタイム復帰 22例
 時短復帰 1例
 療養中 1例

職員の離職防止に貢献

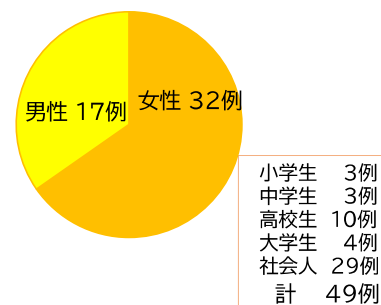


8

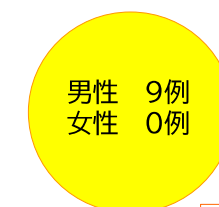
【コロナ後遺症：最近の若年患者の傾向】

◆ 9-29歳の受診者 男女比

<2021年～2024年>



<2025年～>



高校生 6例
 大学生 3例
 計 9例

9

【漢方外来:コロナ後遺症 若年男性】

*全例 コロナ感染前は登校、熱心に部活

	登校状況	デジタル使用時間 /日	経過	精神科
15歳	×	10時間	ひきこもり	拒否
16歳	10%	8時間	自傷行為	紹介
16歳	40%	10時間	不眠	提案中
15歳	60%	8時間	ADHD 抑うつ	紹介
19歳	休学 → 80%	8時間	回復中	なし
16歳	再感染後 休学	8時間	不眠	紹介
20歳	休学	6時間	抑うつ	なし
16歳	(軽症) 90%	1時間以下	完治	なし
21歳	(軽症) 90%	1時間以下	回復中	通院中

10

【コロナ後遺症の最近の傾向：コロナと診断されない患者の増加】

◆ 検査を受けない

◆ 無症状/検査が陰性 でも感染していることはある

→ 後遺症症状が出現しても原因がわからない

◆ 「しんどくて働けない/学校に行けない/家事ができない」

→ 「精神疾患」とみなされる

11



【若年者の後遺症治療現場から見えてくるもの】

診断されていない後遺症患者が相当数存在する可能性

引きこもり (15-69才)	2.0%
不登校 (小中学生)	3.7%
発達障害 (小中学生)	8.8%

デジタル依存

スマホ
ゲーム
動画
SNS

こども家庭庁 令和4年度 こども・若者の意識と生活に関する調査
 文部科学省 令和7年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査
 同 令和4年度 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について

12



◆ 行政へのメッセージ

- ・非正規雇用者のセーフティネットの整備
- ・不登校生徒へのオンライン授業(出席扱い)推進
- ・若年者のデジタル制限推進

(文科省通知)

7 初健食第11号
令和7年9月30日

◆ 各医療機関へのメッセージ

原因不明の就労/就学不能な「倦怠感」は
漢方外来へ紹介下さい

13



決 意

公立病院だからこそできる医療・教育の提供

14



令和8年度 診療科目目標発表



腎臓内科 Nephrology

16

腎臓内科



	氏 名	役 職
1	赤堀 利行	副院長 兼 腎臓内科診療部長 兼 感染対策管理室長
2	辻 将志	部長 兼 血液浄化センター長
3	古澤 眞	医長
4	根岸 圭	医長

17



腎臓内科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標
1日あたり入院患者数（人）	18.8	19.8	22.0	28.0	21.4	24.8	25.0
新入院患者数（人／月）	40	39	38	53	44	45	40
手術件数（人／月）（カテ含む）	12	16	18	6	5	6	10
紹介患者数（人／月）	31	37	43	56	56	53	55
逆紹介患者数（人／月）	32	32	39	49	41	55	45

18



腎臓内科

令和8年度 目標

2 医療の質向上 腎臓系疾患の早期発見・早期治療とCKD患者への教育入院の推進

	項 目	目 標
1	CKD+DKD患者に対する 腎臓病教育・教育入院の実施	対象患者全員へ積極的推奨を行う
2	地域内におけるチーム医療の強化	地域医療機関との研修会等の実施

19

3 経営改善

	項 目	目 標
1	中東遠地域全体の腎臓病医療の充実	受け入れ体制の充実

20

4 専攻医の確保・教育研修

大学との連携による教育体制強化

	項 目	目 標
1	大学との連携	大学と連携し教育レベルの向上を図る
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育の充実を図り研修医確保につなげる

21

決 意

診療レベルの向上と
地域連携の強化により
信頼される腎臓内科として
地域医療に貢献します

22



令和8年度 診療科目目標発表



脳神経内科 Neurology

24

脳神経内科



	氏 名	役 職
1	若井 正一	副院長 兼 脳神経内科診療部長 兼 睡眠医療センター長 兼 認知症疾患医療センター長 兼 人間ドック・健診センター長
2	守吉 秀行	部長
3	寺澤 毅彦	医長
4	垣花 実	医員

25



脳神経内科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8 目標
1日あたり入院患者数（人）	19.3	21.5	20.9	30.7	32.8	43.3	50.0
新入院患者数（人／月）	59	60	64	86	87	99	100
紹介患者数（人／月）	77	76	79	95	102	110	115
逆紹介患者数（人／月）	69	68	77	87	74	93	95

26



脳神経内科

令和8年度 目標

2 医療の質向上 神経疾患の確実な受入と認知症への対応強化

	項 目	目 標
1	認知症疾患医療センターの体制強化	認知症疾患医療センター患者数950人／年
2	認知症ケア加算1の堅持	スタッフ配置による診療の充実と加算の算定

27

3 経営改善

	項 目	目 標
1	アルツハイマー型認知症の新薬治療の普及	新薬使用の可否を判断するアミロイドPET撮像認証取得施設として多くの患者を受け入れる
2	睡眠医療センターの充実	睡眠検査の増加

28

4 専攻医の確保・教育研修

教育体制の強化と研修医の確保

	項 目	目 標
1	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化を図り研修医の確保につなげる
2	内科専攻医への教育を充実	教育プログラムの確実な実施により優秀な内科医を育成する

29



中東遠圏域 神経内科専門医師数	
中東遠総合医療センター	2名
袋井市立聖隷袋井市民病院	1名
袋井市内	1名
御前崎市内	1名
磐田市立総合病院	2名
磐田市内	2名

掛川市 人口	113,832人
袋井市 人口	87,092人
菊川市 人口	46,597人
御前崎市人口	28,157人
4市合計人口	275,678人

神経変性疾患

- ・筋萎縮性側索硬化症
- ・パーキンソン病
- ・認知症

脳神経免疫疾患

- ・多発性硬化症
- ・重症筋無力症
- ・ギラン・バレー症候群

脳神経内科救急疾患

- ・てんかん
- ・髄膜炎
- ・脳炎
- ・急性脳症

一般内科疾患

- ・内科救急における一般内科入院

地域における神経内科専門医不足の中、一般内科救急にも積極的に対応し、菊川市・御前崎市からの患者受入れにも対応することで、**中東遠医療圏の脳神経医療を支える中核的役割**を担っています。

30

決 意

生活への影響が大きい神経疾患の患者さんが、地域で安心して専門的な治療を受けられるよう、中東遠医療圏における脳神経内科診療の充実に努めてまいります。

31



令和8年度 診療科目目標発表



消化器内科 Gastroenterology

32

消化器内科



	氏 名	役 職
1	池上 脩二	部長（診療科長）兼 内視鏡センター長
2	佐々木 雅隆	部長
3	松葉 朋彦	部長
4	竹内 悠祐	医長
5	足立 賢吾	医長
6	山口 智大	医長

33

消化器内科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標
1日あたり入院患者数（人）	27.2	25.6	24.3	22.3	33.8	47.9	45.0
新入院患者数（人／月）	64	66	63	60	80	112	120
紹介患者数（人／月）	83	112	124	130	138	146	160
逆紹介患者数（人／月）	80	73	77	81	91	106	120

34

消化器内科

令和8年度 目標

2 医療の質向上 連携強化による消化器系疾患への対応強化

	項 目	目 標
1	消化器病センターの体制強化	紹介患者の確実な受け入れと当院完結型医療の提供
2	ドック・検診の再検患者への対応強化	再検査・精密検査の受入強化
3	消化管癌に対する内視鏡治療の推進	病院内外への広報、必要な患者全例への提案
4	胆膵疾患に対する内視鏡治療の拡充	

35



3 経営改善

	項 目	目 標
1	内視鏡治療の効率化・検査数増加	ドック患者の確実な拾い上げ 内視鏡治療の周知 実施時のクリニカルパス強化
2	入院化学療法の推進	入院で実施できるものは可能な限り実施
3	DPCを意識した入院管理	可能な限りでのDPCⅡ期末での退院調整

36



4 専攻医の確保・教育研修

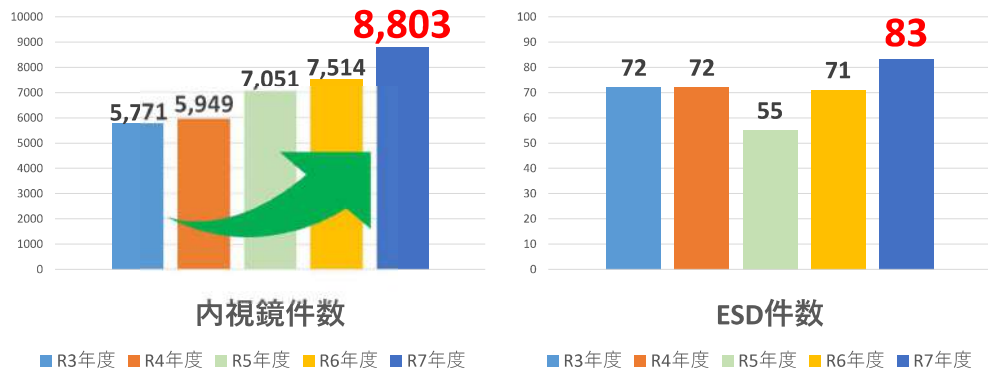
専攻医の獲得と診療体制の維持

	項 目	目 標
1	常勤医師の増員	常勤医師の更なる増員、医局との連携
2	教育体制の強化と専攻医の確保	研修医のリクルート、専攻医の確保

37



5 当科における内視鏡実績の推移



38



決 意

消化器疾患への
迅速かつ適切な診療と
がんの早期発見・早期治療
に貢献します

39



令和8年度 診療科目目標発表

循環器内科 Cardiology

40



循環器内科スタッフ

No.	氏名	役職
1	森川 修司	副院長 兼 医務局長 兼 循環器内科（統括）診療部長 兼 心臓血管センター長 兼 心血管内治療センター長 兼 ICU・CCUセンター副センター長 兼 臨床研修センター長 兼 地域医療支援センター長
2	高山 洋平	診療部長 兼 心臓血管センター副センター長
3	城向 裕美子	診療部長
4	井上 直也	部長兼心臓血管内治療センター副センター長
5	鈴木 綾子	医長
6	三科 貴	医長
7	岩田 恵輔	医長
8	佐藤 佑城	医長
9	大日方 達	医員
10	高橋 奈生	医員
11	加藤 陽生	医員

■：研修医から循環器内科を選び残っているスタッフ



- 1 研修医から循環器内科を選び残っているスタッフが多数います
- 2 日当直業務で救急車（救急直）を開院以来毎年診ているのは循環器内科のみです（地域医療への貢献）
- 3 内科全体の人数が少ないため、できる限り内科全体の業務も行っています（院内での貢献）

41

1 診療目標（1）

令和8年度 目標

2025年度の治療件数（年間実績）



ポイント

- PCIは地域最多レベルを維持し、目標400件を設定
- 下肢血管治療（EVT）は、100件を目標に拡充
- 不整脈治療（アブレーション）は200件、ペースメーカーは100件を目標に設定
- より多くの患者さんに、質の高い循環器医療を提供します



診療件数の拡大を通じて、地域の皆さまの安心と健康を支えます

42

1 診療目標（2）

令和8年度 目標

院内紹介患者数トップクラスを目指し、地域循環器医療への貢献をさらに高めます



目標

院内紹介患者数
トップクラスを目指します

戦略

- ✓ 地域医療機関との連携強化
- ✓ 迅速な外来受入れ体制の充実
- ✓ 紹介しやすい診療科づくり

期待される効果

- ✓ 心臓血管センターへの紹介増加
- ✓ 地域から選ばれる循環器内科へ



紹介・逆紹介の推進を通じて、地域完結型循環器医療に貢献します

43

2 心臓血管センターとして地域医療をさらに進化

令和8年度 目標

4つの取り組みで、
地域の循環器医療を
さらに進化させます



予防から救急・カテーテル・慢性期管理まで、
地域で完結する質の高い循環器医療をさらに推進します

3 経営改善

令和8年度 目標

5つの取り組みで、持続可能で質の高い医療を実現します



経営基盤を強化し、地域の皆さまに信頼される循環器医療を提供し続けます

4 人材育成・教育体制の充実

令和8年度 目標

人を育て、チームを強くすることで、質の高い循環器医療を未来へつなぎます



次世代を育て、チームで支える体制を強化し、地域の未来を支える循環器医療を実現します

研究成果・国際論文実績

エビデンスを創出し、地域から世界へ発信

2025-2026 主要英文論文		2025-2026		掲載誌（掲載・In pressを含む）	
2026	● Circ Reports	2026	Original Articles 英文原著論文 (In pressを含む)	9 報	Circulation Reports
	● Journal of Clinical Lipidology	2026 May 4			JOURNAL OF CLINICAL LIPIDOLGY
2026	● Journal of Cardiovascular Electrophysiology	2026	Case Reports 英文症例報告	2 報	Heart Rhythm*
	● American Journal of Cardiology	2026 Feb 28			Heart Rhythm O2
2026	● Journal of Cardiology	2026 Jun 8	現在投稿中 (査読中) Original Articles (英文原著論文のみ)	6 報	JCE JOURNAL OF CARDIOVASCULAR ELECTROPHYSIOLOGY
	● Open Heart	In press			AJC American Journal of CARDIOLOGY
2025	● Frontiers in Cardiovascular Medicine	In press	筆頭著者	7 報	JCS Journal of Cardiology
	● Heart Rhythm	2025 Dec 4			OPEN HEART
2025	● Heart Rhythm O2	2025 Jun	井上 直也先生	2 報	PACE Pacing and Clinical Electrophysiology
	● Pacing and Clinical Electrophysiology	2025 Jan			EHJ Case Reports European Heart Journal Case Reports
2025	● European Heart Journal - Case Reports	2025 Jan	森川	1 報	frontiers Frontiers in Cardiovascular Medicine
			三科 貴先生	1 報	
2025			大日方 遼先生	1 報	

※ In pressを含む

■ 英文原著論文 (Original Articles) ■ 英文症例報告 (Case Reports)



臨床だけでなく研究にも力を入れ、継続的にエビデンスを創出・発信しています

5 心臓血管センター開設で変わること

令和8年度 目標

地域の循環器医療を、
より高度に、より安全に

循環器内科と心臓血管外科が連携し、
地域で完結できる高度循環器医療を
提供します。

24時間365日体制で、安心と信頼の医療を。



2026年度の新たな取り組み

- ✓ ICD・CRT導入
- ✓ 心臓血管外科との連携強化
- ✓ Heart Team診療の推進

提供する主な診療機能



PCI
(冠動脈インターベンション)



EVT
(末梢血管治療)



アブレーション
(不整脈治療)



デバイス治療
(PM・ICD・CRT)



心臓血管外科手術
(外科バックアップ体制)

予防から救急・カテーテル・外科治療・慢性期管理まで、一貫した循環器医療を提供します

これまでと何が違うのか? “内科のみ”から、“内科+外科が一体となる体制”へ

——より安全に高度治療を—— 高度なカテーテル治療を、外科バックアップが支えます

PCI



狭心症・心筋梗塞に対し、
カテーテルで血行再建を行う治療

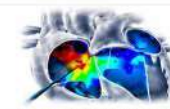
EVT
(下肢)



末梢動脈疾患に対し、
血行再建を行う治療



外科バックアップ体制



カテーテル
アブレーション

不整脈の原因部位を特定・焼灼し、
症状改善・再発抑制を目指す治療



ペースメーカー
(リードレスを含む)

徐脈性不整脈に対し、恒常的な心拍を確保する
デバイス治療を提供



心臓血管外科による
緊急・待機手術対応



多職種チームによる
最適治療の実現



安全性を最優先した
診療体制の確立



カテーテル治療と外科治療の利点を最大限に活かし、合併症リスクの低減と長期予後の改善を目指します。
内科と外科が一体となることで、患者さんにとって最善の医療を提供します。

49

大切な命を、つなぐために。

——循環器内科は、地域に最も信頼される診療科を目指します

循環器内科

地域完結型循環器医療の実現へ



24時間365日体制
迅速な初期対応と
切れ目のない診療体制



高度循環器医療
カテーテル治療から
デバイス治療まで
質の高い医療を提供



地域医療連携
多職種と連携し、
切れ目のない
地域完結型医療を推進



教育・研究の推進
次世代の育成と
エビデンス創出により
医療の質を向上



Heart Team
循環器内科×心臓血管外科の
緊密な連携により
最適な治療を追求

2026年度の重点取り組み

- ✓ ICD・CRT アクティベーションの推進
重症不整脈治療の充実
- ✓ 心臓血管センターの機能強化
内科・外科連携のさらなる深化
- ✓ 紹介患者数のさらなる増加
紹介率・逆紹介率の向上
- ✓ 研究・学術活動の活性化
臨床研究・論文発表の継続的強化



この地域で、一人でも多くの命を救うために。

中東遠総合医療センター 循環器内科



令和8年度 診療科目目標発表



外科 Surgery

52

外科

	氏名	役職
1	宮地 正彦	企業長
2	京兼 隆典	副院長 兼 外科（統括）診療部長 兼 消化器外科（統括）診療部長 兼 消化器病センター長 兼 がん総合診 療センター副センター長 兼 化学療 法センター長
3	河合 徹	副医務局長 兼 外科診療部長 兼 消 化器外科診療部長 兼 呼吸器外科診 療部長 兼 手術センター副センター 長 兼 教育研修センター長
4	相場 利貞	診療部長 兼 消化器外科診療部長
5	久世 真悟	診療部長 兼 血管外科診療部長 兼 乳腺外科診療部長
6	深田 浩志	部長 兼 臨床研修センター部長
7	崔 尚仁	部長
8	池田 幸陽	医長



53

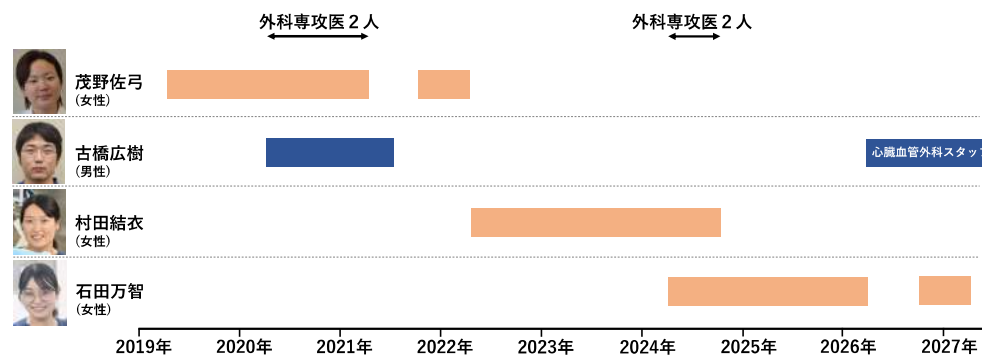
外科



54

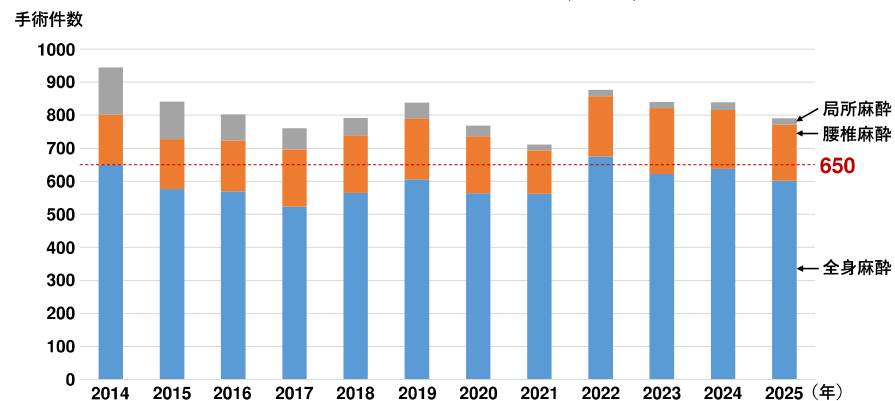
外科

外科専攻医 在職期間



55

外科手術症例数年次推移（当院）



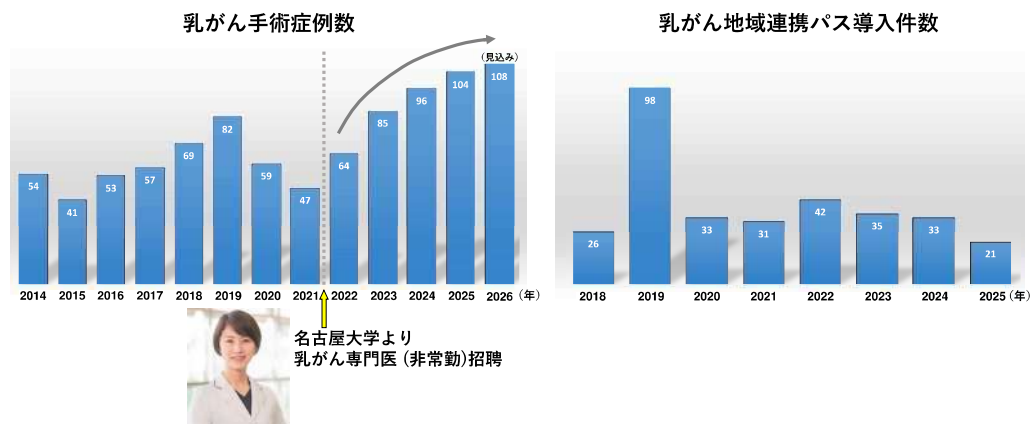
56

外科が扱う疾患

悪性疾患	良性疾患	急性腹症・外傷
乳がん 消化器がん 食道がん 胃がん 大腸がん 肝臓がん 胆管がん 胆嚢がん 膵臓がん	胆石症 ヘルニア 腸閉塞 虫垂炎 良性腫瘍	消化管穿孔 急性胆嚢炎 ヘルニア嵌頓 絞扼性腸閉塞 急性虫垂炎 外傷性消化管穿孔 外傷性出血

57

乳がん症例数年次推移（当院）



58

消化器がんの治療の実際（大腸がんを例に）

ステージ0
5%

ステージ2～3
60%

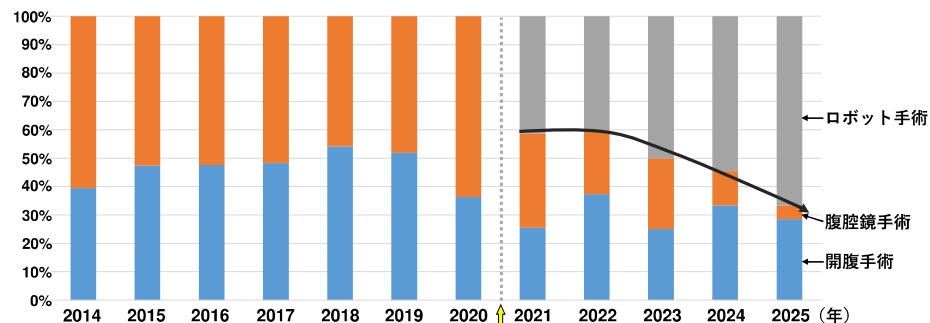
ステージ4
16%

59



外科

直腸がんに対する手術アプローチ法の年次推移（当院）



名古屋大学より
ロボット手術のスペシャリスト赴任

60

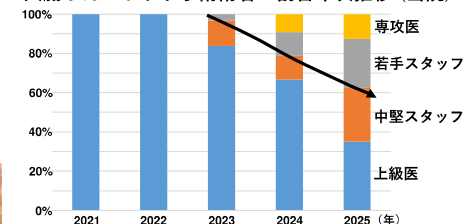


外科

大腸がんに対するロボット支援手術 ー若手医師育成の現状ー



大腸がんロボット手術術者の割合年次推移（当院）



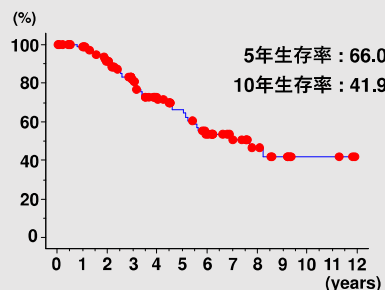
61



外科

ステージ4 大腸がんに対する手術

大腸癌肝転移手術105例の長期成績（当院）



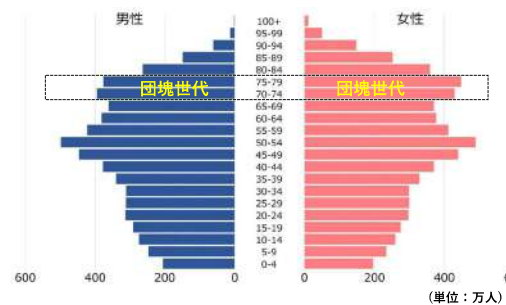
2 2 個の肝転移を伴うステージ4 直腸がん
5 回肝切除術を繰り返し 9 年 6 ヶ月生存中

62



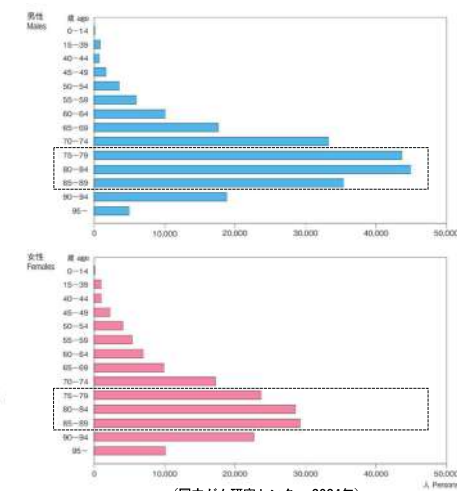
外科

日本人の年齢別人口分布（2024年）



（国連世界人口推計 2024年）

日本人の年齢別がん罹患率（2024年）

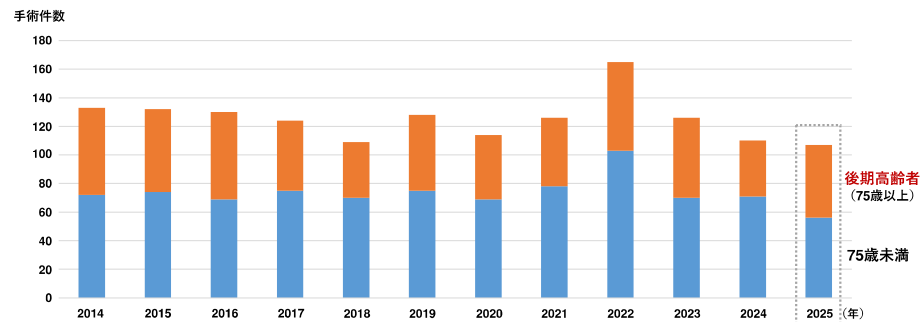


（国立がん研究センター 2024年）

63

高齢がん患者に対する手術治療（当院）

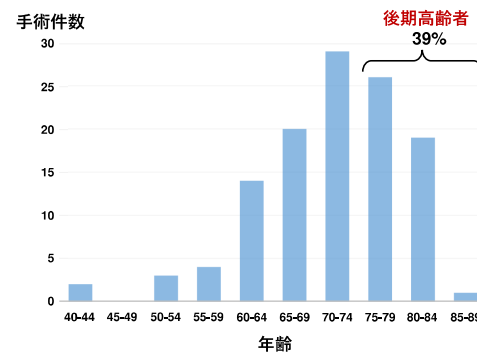
大腸がん：後期高齢者手術症例数年次推移



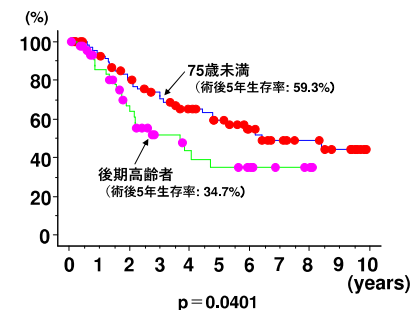
64

高齢がん患者に対する手術治療（当院）

膵臓がん：年齢別手術症例数（118例）



膵臓がん：術後生存率（他病死を除く）



65

静岡県のがん診療体制

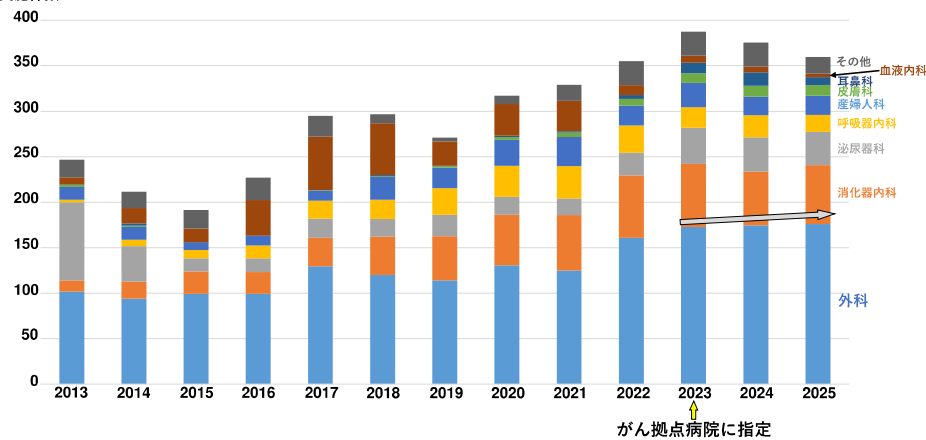
- がん拠点病院（12病院）
- がんゲノム医療中核拠点病院（1病院）
- がんゲノム医療連携病院（10病院）
（がん遺伝子パネル実施可能）



66

当院における外来化学療法実施件数

月間平均化学療法実施件数



67

がん遺伝子パネル検査

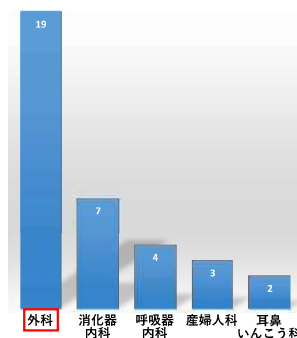


次世代DNAシーケンサー

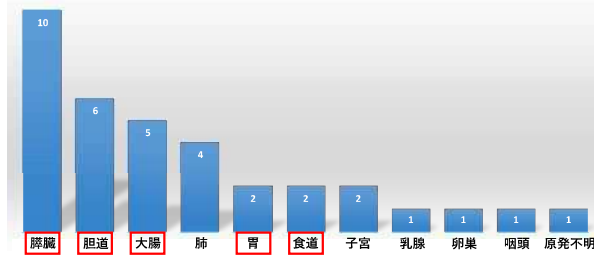
ABT1	ABT2	ABT3	ABT4	ABT5	ABT6	ABT7	ABT8	ABT9	ABT10
ABT11	ABT12	ABT13	ABT14	ABT15	ABT16	ABT17	ABT18	ABT19	ABT20
ABT21	ABT22	ABT23	ABT24	ABT25	ABT26	ABT27	ABT28	ABT29	ABT30
ABT31	ABT32	ABT33	ABT34	ABT35	ABT36	ABT37	ABT38	ABT39	ABT40
ABT41	ABT42	ABT43	ABT44	ABT45	ABT46	ABT47	ABT48	ABT49	ABT50
ABT51	ABT52	ABT53	ABT54	ABT55	ABT56	ABT57	ABT58	ABT59	ABT60
ABT61	ABT62	ABT63	ABT64	ABT65	ABT66	ABT67	ABT68	ABT69	ABT70
ABT71	ABT72	ABT73	ABT74	ABT75	ABT76	ABT77	ABT78	ABT79	ABT80
ABT81	ABT82	ABT83	ABT84	ABT85	ABT86	ABT87	ABT88	ABT89	ABT90
ABT91	ABT92	ABT93	ABT94	ABT95	ABT96	ABT97	ABT98	ABT99	ABT100
ABT101	ABT102	ABT103	ABT104	ABT105	ABT106	ABT107	ABT108	ABT109	ABT110
ABT111	ABT112	ABT113	ABT114	ABT115	ABT116	ABT117	ABT118	ABT119	ABT120
ABT121	ABT122	ABT123	ABT124	ABT125	ABT126	ABT127	ABT128	ABT129	ABT130
ABT131	ABT132	ABT133	ABT134	ABT135	ABT136	ABT137	ABT138	ABT139	ABT140
ABT141	ABT142	ABT143	ABT144	ABT145	ABT146	ABT147	ABT148	ABT149	ABT150
ABT151	ABT152	ABT153	ABT154	ABT155	ABT156	ABT157	ABT158	ABT159	ABT160
ABT161	ABT162	ABT163	ABT164	ABT165	ABT166	ABT167	ABT168	ABT169	ABT170
ABT171	ABT172	ABT173	ABT174	ABT175	ABT176	ABT177	ABT178	ABT179	ABT180
ABT181	ABT182	ABT183	ABT184	ABT185	ABT186	ABT187	ABT188	ABT189	ABT190
ABT191	ABT192	ABT193	ABT194	ABT195	ABT196	ABT197	ABT198	ABT199	ABT200
ABT201	ABT202	ABT203	ABT204	ABT205	ABT206	ABT207	ABT208	ABT209	ABT210
ABT211	ABT212	ABT213	ABT214	ABT215	ABT216	ABT217	ABT218	ABT219	ABT220
ABT221	ABT222	ABT223	ABT224	ABT225	ABT226	ABT227	ABT228	ABT229	ABT230
ABT231	ABT232	ABT233	ABT234	ABT235	ABT236	ABT237	ABT238	ABT239	ABT240
ABT241	ABT242	ABT243	ABT244	ABT245	ABT246	ABT247	ABT248	ABT249	ABT250
ABT251	ABT252	ABT253	ABT254	ABT255	ABT256	ABT257	ABT258	ABT259	ABT260
ABT261	ABT262	ABT263	ABT264	ABT265	ABT266	ABT267	ABT268	ABT269	ABT270
ABT271	ABT272	ABT273	ABT274	ABT275	ABT276	ABT277	ABT278	ABT279	ABT280
ABT281	ABT282	ABT283	ABT284	ABT285	ABT286	ABT287	ABT288	ABT289	ABT290
ABT291	ABT292	ABT293	ABT294	ABT295	ABT296	ABT297	ABT298	ABT299	ABT300
ABT301	ABT302	ABT303	ABT304	ABT305	ABT306	ABT307	ABT308	ABT309	ABT310
ABT311	ABT312	ABT313	ABT314	ABT315	ABT316	ABT317	ABT318	ABT319	ABT320
ABT321	ABT322	ABT323	ABT324	ABT325	ABT326	ABT327	ABT328	ABT329	ABT330
ABT331	ABT332	ABT333	ABT334	ABT335	ABT336	ABT337	ABT338	ABT339	ABT340
ABT341	ABT342	ABT343	ABT344	ABT345	ABT346	ABT347	ABT348	ABT349	ABT350
ABT351	ABT352	ABT353	ABT354	ABT355	ABT356	ABT357	ABT358	ABT359	ABT360
ABT361	ABT362	ABT363	ABT364	ABT365	ABT366	ABT367	ABT368	ABT369	ABT370
ABT371	ABT372	ABT373	ABT374	ABT375	ABT376	ABT377	ABT378	ABT379	ABT380
ABT381	ABT382	ABT383	ABT384	ABT385	ABT386	ABT387	ABT388	ABT389	ABT390
ABT391	ABT392	ABT393	ABT394	ABT395	ABT396	ABT397	ABT398	ABT399	ABT400
ABT401	ABT402	ABT403	ABT404	ABT405	ABT406	ABT407	ABT408	ABT409	ABT410
ABT411	ABT412	ABT413	ABT414	ABT415	ABT416	ABT417	ABT418	ABT419	ABT420
ABT421	ABT422	ABT423	ABT424	ABT425	ABT426	ABT427	ABT428	ABT429	ABT430
ABT431	ABT432	ABT433	ABT434	ABT435	ABT436	ABT437	ABT438	ABT439	ABT440
ABT441	ABT442	ABT443	ABT444	ABT445	ABT446	ABT447	ABT448	ABT449	ABT450
ABT451	ABT452	ABT453	ABT454	ABT455	ABT456	ABT457	ABT458	ABT459	ABT460
ABT461	ABT462	ABT463	ABT464	ABT465	ABT466	ABT467	ABT468	ABT469	ABT470
ABT471	ABT472	ABT473	ABT474	ABT475	ABT476	ABT477	ABT478	ABT479	ABT480
ABT481	ABT482	ABT483	ABT484	ABT485	ABT486	ABT487	ABT488	ABT489	ABT490
ABT491	ABT492	ABT493	ABT494	ABT495	ABT496	ABT497	ABT498	ABT499	ABT500
ABT501	ABT502	ABT503	ABT504	ABT505	ABT506	ABT507	ABT508	ABT509	ABT510
ABT511	ABT512	ABT513	ABT514	ABT515	ABT516	ABT517	ABT518	ABT519	ABT520
ABT521	ABT522	ABT523	ABT524	ABT525	ABT526	ABT527	ABT528	ABT529	ABT530
ABT531	ABT532	ABT533	ABT534	ABT535	ABT536	ABT537	ABT538	ABT539	ABT540
ABT541	ABT542	ABT543	ABT544	ABT545	ABT546	ABT547	ABT548	ABT549	ABT550
ABT551	ABT552	ABT553	ABT554	ABT555	ABT556	ABT557	ABT558	ABT559	ABT560
ABT561	ABT562	ABT563	ABT564	ABT565	ABT566	ABT567	ABT568	ABT569	ABT570
ABT571	ABT572	ABT573	ABT574	ABT575	ABT576	ABT577	ABT578	ABT579	ABT580
ABT581	ABT582	ABT583	ABT584	ABT585	ABT586	ABT587	ABT588	ABT589	ABT590
ABT591	ABT592	ABT593	ABT594	ABT595	ABT596	ABT597	ABT598	ABT599	ABT600
ABT601	ABT602	ABT603	ABT604	ABT605	ABT606	ABT607	ABT608	ABT609	ABT610
ABT611	ABT612	ABT613	ABT614	ABT615	ABT616	ABT617	ABT618	ABT619	ABT620
ABT621	ABT622	ABT623	ABT624	ABT625	ABT626	ABT627	ABT628	ABT629	ABT630
ABT631	ABT632	ABT633	ABT634	ABT635	ABT636	ABT637	ABT638	ABT639	ABT640
ABT641	ABT642	ABT643	ABT644	ABT645	ABT646	ABT647	ABT648	ABT649	ABT650
ABT651	ABT652	ABT653	ABT654	ABT655	ABT656	ABT657	ABT658	ABT659	ABT660
ABT661	ABT662	ABT663	ABT664	ABT665	ABT666	ABT667	ABT668	ABT669	ABT670
ABT671	ABT672	ABT673	ABT674	ABT675	ABT676	ABT677	ABT678	ABT679	ABT680
ABT681	ABT682	ABT683	ABT684	ABT685	ABT686	ABT687	ABT688	ABT689	ABT690
ABT691	ABT692	ABT693	ABT694	ABT695	ABT696	ABT697	ABT698	ABT699	ABT700
ABT701	ABT702	ABT703	ABT704	ABT705	ABT706	ABT707	ABT708	ABT709	ABT710
ABT711	ABT712	ABT713	ABT714	ABT715	ABT716	ABT717	ABT718	ABT719	ABT720
ABT721	ABT722	ABT723	ABT724	ABT725	ABT726	ABT727	ABT728	ABT729	ABT730
ABT731	ABT732	ABT733	ABT734	ABT735	ABT736	ABT737	ABT738	ABT739	ABT740
ABT741	ABT742	ABT743	ABT744	ABT745	ABT746	ABT747	ABT748	ABT749	ABT750
ABT751	ABT752	ABT753	ABT754	ABT755	ABT756	ABT757	ABT758	ABT759	ABT760
ABT761	ABT762	ABT763	ABT764	ABT765	ABT766	ABT767	ABT768	ABT769	ABT770
ABT771	ABT772	ABT773	ABT774	ABT775	ABT776	ABT777	ABT778	ABT779	ABT780
ABT781	ABT782	ABT783	ABT784	ABT785	ABT786	ABT787	ABT788	ABT789	ABT790
ABT791	ABT792	ABT793	ABT794	ABT795	ABT796	ABT797	ABT798	ABT799	ABT800
ABT801	ABT802	ABT803	ABT804	ABT805	ABT806	ABT807	ABT808	ABT809	ABT810
ABT811	ABT812	ABT813	ABT814	ABT815	ABT816	ABT817	ABT818	ABT819	ABT820
ABT821	ABT822	ABT823	ABT824	ABT825	ABT826	ABT827	ABT828	ABT829	ABT830
ABT831	ABT832	ABT833	ABT834	ABT835	ABT836	ABT837	ABT838	ABT839	ABT840
ABT841	ABT842	ABT843	ABT844	ABT845	ABT846	ABT847	ABT848	ABT849	ABT850
ABT851	ABT852	ABT853	ABT854	ABT855	ABT856	ABT857	ABT858	ABT859	ABT860
ABT861	ABT862	ABT863	ABT864	ABT865	ABT866	ABT867	ABT868	ABT869	ABT870
ABT871	ABT872	ABT873	ABT874	ABT875	ABT876	ABT877	ABT878	ABT879	ABT880
ABT881	ABT882	ABT883	ABT884	ABT885	ABT886	ABT887	ABT888	ABT889	ABT890
ABT891	ABT892	ABT893	ABT894	ABT895	ABT896	ABT897	ABT898	ABT899	ABT900
ABT901	ABT902	ABT903	ABT904	ABT905	ABT906	ABT907	ABT908	ABT909	ABT910
ABT911	ABT912	ABT913	ABT914	ABT915	ABT916	ABT917	ABT918	ABT919	ABT920
ABT921	ABT922	ABT923	ABT924	ABT925	ABT926	ABT927	ABT928	ABT929	ABT930
ABT931	ABT932	ABT933	ABT934	ABT935	ABT936	ABT937	ABT938	ABT939	ABT940
ABT941	ABT942	ABT943	ABT944	ABT945	ABT946	ABT947	ABT948	ABT949	ABT950
ABT951	ABT952	ABT953	ABT954	ABT955	ABT956	ABT957	ABT958	ABT959	ABT960
ABT961	ABT962	ABT963	ABT964	ABT965	ABT966	ABT967	ABT968	ABT969	ABT970
ABT971	ABT972	ABT973	ABT974	ABT975	ABT976	ABT977	ABT978	ABT979	ABT980
ABT981	ABT982	ABT983	ABT984	ABT985	ABT986	ABT987	ABT988	ABT989	ABT990
ABT991	ABT992	ABT993	ABT994	ABT995	ABT996	ABT997	ABT998	ABT999	ABT1000

がん細胞の324個の遺伝子の
“キズ”の有無を調べる。

当院におけるがん遺伝子パネル検査実施状況（35件：2025.1.1～2026.7.8）



科別実施件数



臓器別実施件数

決意

- 外科専攻医確保。
- 専攻医を含めた若手医師のロボット手術手技習得。
- がん拠点病院として：
 - ・低侵襲手術、高侵襲手術、集学的治療の短期・長期成績維持。
 - ・圏域住民のがん治療を当院で完結。
 - ・今後増加が予想される高齢がん患者への対応。
- がんゲノム医療連携病院として：
 - ・中東遠医療圏におけるがんゲノム医療の推進。



令和8年度 診療科目目標発表

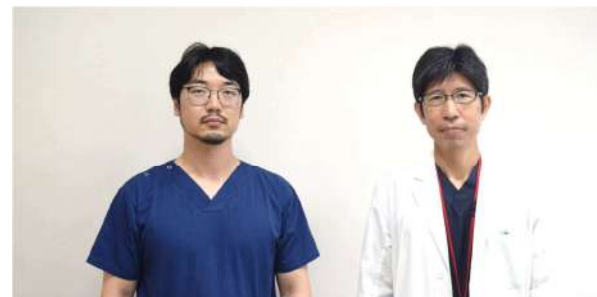


心臓血管外科 Cardiovascular Surgery

72



心臓血管外科



	氏名	役職
1	山名 孝治	診療部長 兼 心臓血管センター副センター長
2	古橋 広樹	医長

73



心臓血管外科

令和8年度

目標

1 診療目標

項 目	R8目標
1日あたり入院患者数（人）	5
新入院患者数（人／月）	12
手術件数（人／月）	12
紹介患者数（人／月）	3
逆紹介患者数（人／月）	6

74



心臓血管外科

令和8年度

目標

2 医療の質向上

	項 目	目 標
1	安全な心臓血管外科手術	術後30日以内の死亡率0%、合併症発生率1%以下を目指す。
2	低侵襲手術の実施	地域の高齢化のため、胸骨を切らない小さい傷での手術を開始。5例の実施。
3	チーム医療の成長	術前、術後のカンファレンスを行い、チームで情報共有、振り返りを行う。
4	知識のアップデート	手術部看護師、人工心肺技師と抄読会を行い、知識のアップデートを行う

75



3 経営改善

	項 目	目 標
1	手術症例数の増加	年80例の手術を行う。診療報酬が高額のため、手術増加で病院の利益を増やす。
2	緊急手術の開始	年10例の緊急手術。休日・深夜加算が加わると手術点数X2.6倍の診療報酬になる。 例：上行弓部置換術 172万円X2.6 = 447万円

76



4 専攻医の確保・教育研修

	項 目	目 標
1	専攻医の確保	心臓血管外科志望の研修医の受け入れ。1人/2年

77



心臓と血管の健康を守るために

—心臓血管外科が新しく開設されました—

心臓血管外科とは？

- ・心臓血管外科は、心臓や大動脈、手足の血管など、命に関わる重要な臓器の病気を外科的に治療する診療科です。
- ・主な疾患として、狭心症・心筋梗塞、心臓弁膜症、大動脈瘤・大動脈解離、下肢動脈閉塞症等があります。
- ・これらは放置すると命に関わることもありますが、早期に治療すれば元気に生活を続けられる可能性が大きく広がります。

当院で行う主な手術・治療

- ・冠動脈バイパス手術（CABG）
心臓の血管が詰まった場合に、別の血管を使って血流の迂回路を作る手術です。
- ・僧帽弁・大動脈弁の手術
弁膜症に対して、弁形成術（壊れた弁を修復する手術）や弁置換術（人工弁に取り換える手術）を行います。
- ・大動脈瘤・大動脈解離の手術
胸部・腹部の大動脈に対して、人工血管を用いた手術を行います。
- ・ステントグラフト治療（血管内治療）
足の付け根から細い管を入れ、体への負担を少なくして大動脈瘤を治療する方法です。



地域で完結できる医療を目指して

- ・心臓や大動脈の病気は、突然症状が悪化することがあります。そのため、「近くに専門医がいる」ということは、患者さんにとって大きな安心につながります。
- ・当院では、循環器内科、麻酔科、手術室、集中治療室（ICU）、救急科など、院内の多職種が連携し、「地域で完結できる心臓・血管治療」を実現する体制を整えています。
- ・手術後のリハビリテーションや生活指導も院内で一貫して行い、患者さんが元の生活に戻るまでしっかりサポートします。

地域のみなさまへ

- ・心臓血管外科の開設にあたり、私たちは「地域の命を守る最後の砦になる」という思いで準備を進めてきました。
- ・心臓や血管の病気は不安が大きいのですが、どんな小さな症状でも気軽に相談していただける診療科でありたいと考えています。
- ・胸の痛み、息切れ、動悸、足の冷えやむくみなど、気になる症状があれば遠慮なくご相談ください。地域の皆さまの健康を守るため、スタッフ一同、力を尽くしてまいります。

78



決 意

- 安全、安定の心臓血管外科手術を行う。
- 地域で完結できる心臓血管外科医療を提供する。
- 心臓血管外科専門医修練施設の認定。
- 低侵襲心臓血管外科治療の実施。

79



令和8年度 診療科目目標発表



整形外科 Orthopedic Surgery

80

整形外科



	氏 名	役 職
1	浦崎 哲哉	副院長 兼 整形外科（統括）診療部長 兼 リウマチ科診療部長 兼 脊椎・脊髄センター長 専門：脊椎
2	石井 久雄	院長補佐 兼 整形外科診療部長 兼 手外科・外傷再建センター長 専門：手外科、外傷一般
3	落合 聡史	診療部長 専門：股関節
4	仲野 隆彦	部長 専門：手外科、外傷一般
5	大石 遼太郎	部長 専門：脊椎
6	北澤 謙太郎	医員 専攻医
7	渥美 元英	医員 専攻医
8	伊藤 直哉	医員 専攻医
9	福島 仰輝	医員 専攻医

81



整形外科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標
1日あたり入院患者数（人）	41.8	49.5	58.3	52.0	52.4	59.7	63
新入院患者数（人／月）	88	102	100	104	102	109	110
手術件数（人／月）	85	100	99	102	101	118	125
紹介患者数（人／月）	144	165	166	154	160	165	170
逆紹介患者数（人／月）	141	131	130	146	145	177	180

82



整形外科

令和8年度 目標

2 医療の質向上 入院、手術を中心とした急性期診療機能の強化

	項目	目標
1	地域医療体制の強化	中東遠地域のすべての方へ急性期診療を提供する体制作り

3 経営改善

	項目	目標
1	手術件数の増加	1,500件／年
2	紹介件数の増加	2,000件／年
3	逆紹介件数の増加	2,100件／年

83

4 専攻医の確保・教育研修

	項 目	目 標
1	教育体制の強化と専攻医の確保	1人以上の整形外科専攻医の確保 教育体制の強化と教育レベルの明確化

令和8年度より
整形外科専門研修基幹プログラム
開始

84

当科の特徴

診療の3本柱



①脊椎脊髄センター



②手外科・外傷再建センター



③人工関節手術

85

手外科・外傷再建センター

- 2025年7月より従来の手外科センターが、
「手外科・外傷再建センター」として生まれ変わりました
- これまでの「手の専門治療」に加えて、治療の難しい「手足の大きなけが」にも対応できるようになりました

対象疾患

- ・手指切断等の重度外傷を含めたほぼすべての手外科疾患
- ・皮膚・軟部組織欠損
- ・難治性骨折や感染性偽関節 など

中東遠地域のみならず、広く重度四肢外傷の患者さんの治療を当院で行っています！

ご紹介を是非お願いいたします

86

決 意

整形外科疾患、特に四肢外傷治療において
静岡県の中心的役割を担うとともに
将来のリーダーとなる整形外科医を育成する

87



令和8年度 診療科目目標発表

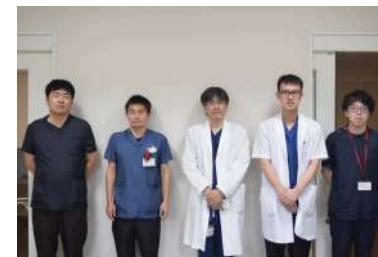


脳神経外科

Neurosurgery

88

脳神経外科



	氏 名	役 職
1	鳥飼 武司	副医務局長 兼 脳神経外科（統括）診療部長 兼 脳血管内治療センター長 兼 ICU・CCUセンター副センター長
2	松尾 州佐久	診療部長 兼 脳血管内治療センター副センター長
3	北村 拓海	部長
4	林 裕樹	部長
5	楠井 翔也	医員

89

脳神経外科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標
1日あたり入院患者数（人）	32.0	36.6	32.4	32.8	40.9	36.1	40.0
新入院患者数（人／月）	55	63	53	55	67	61	55
手術件数（件／月）	12	13	15	13	18	14	15
紹介患者数（人／月）	69	68	47	50	56	50	50
逆紹介患者数（人／月）	77	68	50	56	53	60	60

90

脳神経外科

令和8年度 目標

2 医療の質向上 診療ガイドラインに基づく治療の徹底

	項 目	目 標
1	24時間365日体制の確保	断らない、疲弊しない、診療体制の確保
2	診療技術	個人およびチームとして高める
3	地域連携の更なる強化	地域から広く率直な意見を求めます。

91

3 経営改善

	項 目	目 標
1	効率化	無駄をなくす
2	手術症例の増加	適正な適応基準に基づき粛々を行う

92

4 専攻医の確保・教育研修

研修医・専攻医への教育強化

	項 目	目 標
1	脳神経外科のやりがい	名古屋市立大学脳神経外科 令和8年9月より、中村元 教授が就任
2	大学医局との連携	教育や研修の改革

93

脳卒中の外科として

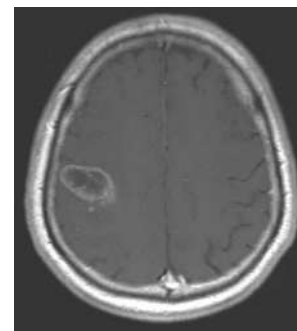
今後も、中東遠医療圏の脳卒中診療に貢献

今後取り組んでいきたいこと

脳腫瘍に対する治療の充実

94

膠芽腫



疫学

【発生率】人口10万人あたり年間3人。

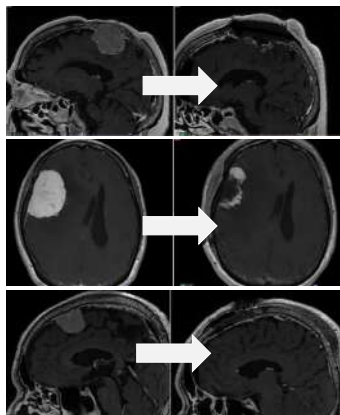
【予 後】生存率は1年40%、3年10%、5年5%
→原発性脳腫瘍の10%を占める最も悪性度の高い腫瘍

2025年 当科診療実績

生検による診断
→放射線化学療法(34Gy+テモダール) →12ヶ月で死去

95

髄膜腫



疫学

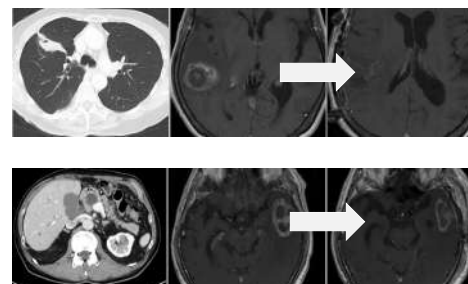
【発生率】人口10万人あたり年間8人
 【予 後】約80%が良性で、緩徐に増大
 →原発性脳腫瘍の30%を占める

2025年 当科診療実績

2025年度 3例の摘出術

96

転移性脳腫瘍



疫学

がん治療の進歩により、がん患者の生存期間が延長し、転移性脳腫瘍の罹患率は増加している。

転移性脳腫瘍はがん患者のQOLを大きく変化させる。

がんに対する集学的治療の質を高めるため、脳神経外科としての責務を果たす。

2025年 当科診療実績

肺癌および膵癌の脳転移に対して摘出術

97

決 意

個人そしてチームとして
 診療技術をさらに高め
 脳卒中治療をはじめとする
 地域医療に貢献します

98



令和8年度 診療科目目標発表



小児科 Pediatrics

100

小児科



	氏 名	役 職
1	岩島 寛	副院長 兼 小児科（統括）診療部長 兼 臨床研究管理室長
2	矢田 宗一郎	診療部長
3	關 圭吾	診療部長
4	早野 聡	診療部長 兼 臨床研修センター副センター長 兼 中東遠アレルギー疾患研究センター副センター長
5	山口 慎	部長
6	早川 晶也	部長
7	伊藤 裕	部長
8	猿渡 ちさと	医長
9	熊木 優之	医長
10	高井 陽希	医員

101

小児科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R 8 目標
1日あたり入院患者数（人）	13.0	13.1	12.4	11.1	13.9	12.1	14.0
新入院患者数（人／月）	75	75	70	73	87	81.5	85.0
紹介患者数（人／月）	104	132	120	133	170	153.9	150.0
逆紹介患者数（人／月）	20	27	40	49	49	56.5	50.0

102

小児科

令和8年度 目標

2 医療の質向上

- ・あらゆる小児疾患に対する診療体制の充実
- ・専門施設との連携強化

	項 目	目 標
1	小児入院医療体制の強化	体制強化による小児入院医療管理料3の取得 養育支援体制加算の取得
2	行政や施設との連携強化	地域医療的ケア児支援センター設置準備 小児生活習慣病予防検診への貢献
3	小児発達支援	5歳児健診についての設置準備
4	子どもの救命体制の強化	小児の急変や心肺停止に備え、医師・看護師を 対象とした実践的な小児救命講習会を毎年開催

103

2 医療の質向上

・あらゆる小児疾患に対する診療体制の充実
 ・専門施設との連携強化

JPLSとは

日本小児科学会

Japan Pediatric Life Support

日本小児科学会の研修コース

「防ぎうる心停止から子どもたちを守る」

日常診療での危険認知と早期対応を実践形式で学ぶ

JPLS

ガイドブック





104

3 経営改善

	項 目	目 標
1	地域医療のケア児支援センター設置事業	設置認可に向けて取り組む
2	学童生活習慣病健診	静岡県下で小笠地区における健診活動を啓発し、 家族性高コレステロール血症患者について静岡県 の拠点病院となる
3	研究活動	社会実装を見据えた研究活動の加速

105

3 経営改善

	項 目	目 標
2	学童生活習慣病健診	静岡県下で小笠地区における健診活動を啓発し家族性高コレステ ロール血症患者について静岡県の拠点病院となる
3	研究活動	社会実装を見据えた研究活動の加速

動画 1

2025年10月11日

10月11日はLDLコレステロールの日

ldl

日本動脈硬化学会は、日本循環器協会と
共催で 10 月 11 日をLDLコレステロール
の日としました。このLDLコレステロール
の日を通して、国民の健康意識を高め、
健康寿命の延伸の実現を目指します。

動画 2

家族性高コレステロール血症
知照と健康習慣

FAMILIAL
HYPERCHOLESTEROLEMIA

きんもくせい

きんもくせい

153

106

4 専攻医の確保・教育研修

・研修教育の強化と研修医の確保
 ・当院出身小児科専門医の育成

	項 目	目 標
1	初期研修医の教育強化	月10例程度の受け持ち
2	後期研修医の教育強化	学会での症例報告、論文作成、専門医育成
3	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

107

中東遠地区医療的ケア児支援について

1 県立特別支援学校医療的ケア児数（令和5年5月1日現在）

	人数	学校数
医療的ケア児数	195人	23校
人工呼吸器装着児	13人	5校

中東遠地区特別養護学校調査による医療的ケア児の推移



令和6年度
・中央特別支援学校での実施。
・西部特別支援学校、東部特別支援学校で学校体制を整備し実施する。
・関係機関との連携、協力体制が整い次第、袋井特別支援学校、藤枝特別支援学校で学校体制を整備し実施する。

3 袋井特別支援学校での取組

（1）袋井特別支援学校の医療的ケア児数

学級	医療的ケア児数	人工呼吸器装着児数
小学部	7	1
中学部	2	0
高等部	1	0
計	10	1

増加傾向！

108

中東遠地区の小児科医師不足深刻！



資 図表 22-13 専門医数（総合内科、小児科、産婦人科）

二次医療圏	総合内科 専門医数	小児科 専門医数	産婦人科 専門医数	人口 10万 人当り	偏差値 +全国は 標準偏差	二次医療圏 人口	人口 10万 人当り	偏差値 +全国は 標準偏差
全国	32,119	26.3	14,168	11.2	(12.4)	11,602	9.2	(14.3)
静岡県	767	2.3%	364	2.4%	10.0	288	2.5%	7.9
東部	9	1%	8.4	38	1	4	1%	6.7
中部	15	2%	15.0	41	4	1%	4.0	35
西部	123	16%	19.2	44	47	13%	7.3	42
富士	39	5%	10.4	37	20	5%	5.4	38
静岡	149	19%	21.5	48	132	34%	18.0	48
浜北	78	10%	17.2	43	22	6%	4.9	37
浜南	88	11%	18.9	44	26	7%	5.6	38
西部	270	35%	31.8	54	112	31%	12.2	54

109

医療的ケア児支援センター設置準備

令和7年6月4日

静岡県医療的ケア児等支援センター

医療的ケア児等相談体制の整備に係る補助事業等について

（障害者支援局障害福祉課）

1 国庫補助事業の内容等

項目	内容
事業名	医療的ケア児等総合支援事業
事業実施主体	市町（市町が自ら実施もしくは法人・団体等に委託して実施）

事業内容

（1）医療的ケア児等の協議の場の設置

医療的ケア児等の支援に携わる保健、医療、福祉、教育、子育て等の各分野の関係機関及び当事者団体で構成される協議の場を設置する。協議の場で、地域の現状把握・分析等、地域全体の医療的ケア児等とその家族が直面する課題及びその対応策の検討を行う。

（2）医療的ケア児等の相談体制の整備

医療的ケア児等コーディネーターを配置し、以下①②を実施する。

- ①医療的ケア児とその家族に対し保健、医療、福祉等の必要なサービスを紹介し関係機関とつなぐ
- ②県医療的ケア児等支援センターや他機関に配属された医療的ケアコーディネーター間及び相談支援専門員と情報交換や症例の検討を行う

110

これまでの小児科としての取り組み！

- （1）掛川市、袋井市教育委員会医療的ケア児支援運営協議会および掛川市袋井市特別支援学校における医療的ケア児支援に携わり、地域における相談窓口としての活動。また啓蒙活動に取り組む
- （2）医療的ケア児等コーディネーターを配置。

111

◆ ご留意いただきたい点

1 に記載の国庫補助事業について、市町から委託を受ける形で実施することとなります。よって、**市町当局において委託事業の立案、財源の確保等を行い、予算案を市町議会に上程し、議会の議決を得る必要があります。**市町の動きにもよりますが、これらの対応には一定の時間を要する見込みです。

地域の医療的ケア児とご家族が安心して暮らせる仕組みを地域全体で支えるために支援センターが必要です！

112

決 意

地域の小児科医療における未来を支えるために、議会・行政のご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

114

法改正を、掛川・袋井の身近な支援へ

医療・福祉・教育をつなぎ、子どもから成人期まで
地域で切れ目なく支える拠点が必要です

2026年7月24日
国会で全会一致可決
2027年4月1日 施行予定

01

支援対象が広がります

医療的ケア児に加え、**成人期や重症心身障害者**まで、地域生活を切れ目なく支援

02

支援機能が強化されます

相談、医療・福祉・教育の連携、一時預かり、**災害時支援**を充実

03

地域の身近な拠点が必要です

県センターと連携し、**中東遠**で相談と連絡調整が完結する体制へ

掛川市・袋井市へ
予算措置の
お願い

両市の共同事業として、当院に
「**中東遠地域医療的ケア児等支援センター（仮称）**」を設置
令和9年度：設置準備・運営費 | 専門相談員の配置 | 連携調整 | 家族支援

※ 静岡県医療的ケア児支援センターを模範とする。中東遠の地域5選拠点として機能

【出典】静岡県立病院「改正法案概要」/「静岡県「医療的ケア児等支援センター」

113



令和8年度 診療科目目標発表



産婦人科

Obstetrics and Gynecology

116

産婦人科



	氏 名	役 職
1	村上 裕介	院長補佐 兼 産婦人科(統括)診療部長 兼 手術センター副センター長
2	田中 晶	診療部長 兼 がん総合診療センター診療部長
3	川岡 大才	部長
4	大嶽 宙士	医長
5	窪川 瑞生	医長

117

産婦人科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標
1日あたり入院患者（人）	19.8	21.2	19.7	18.8	17.5	16.1	18.0
新入院患者数（人／月）	75	88	82	80	74	72	70
手術件数（件／月）	32	39	39	37	37	34	35
分娩件数（件／月）	33	32	30	26	24	22	20
紹介患者数（人／月）	99	98	93	95	81	90	90
逆紹介患者数（人／月）	19	21	20	21	16	16	15

118

産婦人科

令和8年度 目標

2 医療の質向上 より専門性の高い医療

0	項 目	目 標
1	産科医療	正常妊娠からハイリスク妊娠までの取り扱い 母体緊急搬送の可能な限りの受け入れ 超緊急帝王切開時の体制の維持
2	がん診療	高度な技術を要する悪性腫瘍手術から 終末期医療まで取り組む
3	腹腔鏡手術	良性腫瘍は基本的に腹腔鏡手術 早期子宮体がんはロボット支援下子宮悪性腫瘍手術 早期子宮頸がんは腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 子宮内膜ポリープと子宮粘膜下筋腫は子宮鏡手術

119



3 経営改善

	項 目	目 標
1	手術	低侵襲手術の増加 子宮体がんのロボット手術 子宮頸がんの腹腔鏡手術
2	化学療法	新規レジメンの早期適応 副作用マネジメントのために、適切に入院治療も行う がん遺伝子パネル検査

120



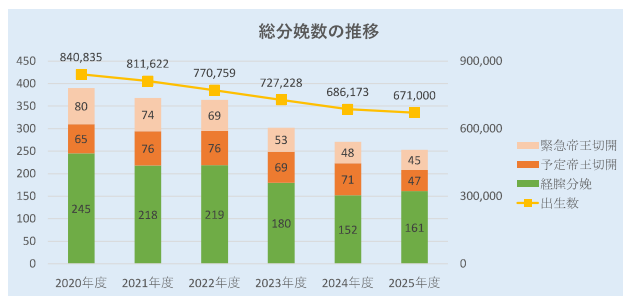
4 専攻医の確保・教育研修

	項 目	目 標
1	回診、症例カンファレンス	外来および入院患者の情報を共有し、治療方針を明確にし、専攻医へ教育をする
2	産婦人科専門医に続く、サブスペシャリティの取得	周産期専門医、婦人科腫瘍専門医、内視鏡技術認定医を取得可能な修練施設である 昨年度に当科から内視鏡技術認定医の申請を行った医師1名が、2026年7月に合格

121



- ・分娩数は減少傾向が続いている。
- ・一方で、ハイリスク妊婦（高齢・高度不妊治療後妊娠・合併症・社会的背景）や外国人妊婦の割合は増加している。
- ・総分娩数の減少は、若手医師の分娩対応技術の習得に影響している。
- ・経産分娩数の減少は、助産師のやりがいにも影響している。
- ・分娩件数には反映されない重症救急（産後危機的出血など）への対応も増えている。



122



- ・周産期医療の継続については、当科だけでなく、中東遠医療圏全体で検討する課題である。
- ・分娩数の増加ではなく、当院での分娩を希望された妊婦に、
 - ・安心
 - ・安全
 - ・思い出に残る出産体験

◆ 2026年度 新規

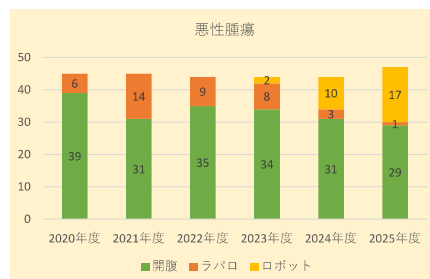
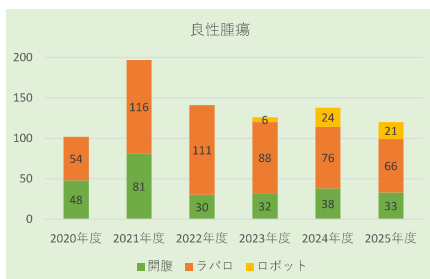
分娩室に家族と過ごす畳コーナーを整備➡
長くて辛い陣痛の間、
通路に並んだ狭くて暗い陣痛室ではなく、
家族とゆっくり過ごせるスペースになった。



123

婦人科の特徴

- ・日本婦人科腫瘍学会修練施設A（県内5施設のみ）であり、婦人科腫瘍専門医が2名在籍する。
- ・日本産科婦人科内視鏡・ロボティクス学会認定内視鏡およびロボット研修施設であり、内視鏡およびロボット技術認定医1名が在籍する。
- ・悪性腫瘍に対する内視鏡手術の実施が可能な施設であり、子宮体癌ではロボット手術が増加。



124

産婦人科

悪性腫瘍治療をさらに充実

- ・根治を目指した初回治療
- ・あきらめない再発治療
- ・早期がんではロボット手術を含めた低侵襲手術を推進
- ・分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬、抗体薬物複合体などの最新治療にも対応
- ・患者背景に応じた個別化医療を提供

◆ 2026年度 新規

- ・婦人科腫瘍専門医が紹介初診から継続して担当
- ・子宮頸癌（ⅠA1期）に対する腹腔鏡手術の保険適応が可能に

⇒ 標準的ながん医療を、地域で安心して受けられる産婦人科

125

産婦人科

今年度の重点目標

- ・周産期医療の質の維持
- ・安心・安全な分娩環境の提供
- ・悪性腫瘍診療の強化
- ・低侵襲手術の推進

126

産婦人科

決意

地域住民に安全な産科婦人科医療を
提供できるように精進します。

127



令和8年度 診療科目目標発表



泌尿器科 Urology

128

泌尿器科



	氏 名	役 職	卒年度	主な資格等
1	松下 雄登	部長（診療科長）	2013年	泌尿器科専門医・指導医 ロボット支援手術プロクター認定医
2	佐藤 亮	部長	2015年	泌尿器科専門医・指導医 ロボット支援手術認定医
3	松永 悠	医長	2019年	泌尿器科専門医 ロボット支援手術認定医
4	西尾 哲治	医長	2021年	緩和ケア研修会 修了
5	小川 拓洋	医員	2024年	緩和ケア研修会 修了

129



泌尿器科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標
1日あたり入院患者数（人）	16.3	16.3	17.2	19.0	22.8	20.0	25.0
新入院患者数（人／月）	59	65	69	74	83	74	85
手術件数（件／月）	43	46	49	49	54	54	60
ロボット支援手術件数（件／年）	37	36	37	48	54	42	60
紹介患者数（人／月）	70	79	79	79	80	82	90
逆紹介患者数（人／月）	41	38	39	50	63	46	70

130



泌尿器科

令和8年度 目標

2 医療の質向上

	項 目	目 標
1	ロボット支援手術の安全性向上	事故0件
2	地域連携の強化	紹介件数 1,000件／年 逆紹介件数 800件／年
3	新規手術の導入	前立腺肥大症に対するRezūm治療 尿路結石に対するクリアベトラ 腎盂尿管癌に対する完全ロボット支援下腎尿管全摘除術

131



3 経営改善

	項 目	目 標
1	入院患者数の増加	1日あたりの入院患者数25人
2	入院診療単価の向上	全手術患者のDPCⅡ期での退院
3	手術症例の増加	手術枠の有効活用

132



4 専攻医の確保・教育研修

	項 目	目 標
1	泌尿器腹腔鏡技術認定医の育成	新規技術認定医申請 ※今年度 1名申請予定
2	ロボット支援手術プロクター取得	新規プロクター申請 ※今年度 1名申請予定
3	後期研修医の確保	教育成果のアピール、浜松医大との連携

133



自己紹介

- ・浜松市(旧細江町)出身、浜松医大卒業
- ・2015年 浜松医大 泌尿器科入局。以降、浜松医大で11年間研鑽。
臨床：浜松医大へのロボット手術導入～発展
ロボット支援手術 前立腺／腎部分切除／腎尿管全摘除／副腎摘除／腎盂形成／膀胱全摘
- 研究：

Prognostic outcomes in patients with metastatic renal cell carcinoma receiving second-line treatment with tyrosine kinase inhibitor following first-line immune-oncology combination therapy

Comparative assessment of disease recurrence after transurethral resection of non-muscle-invasive bladder cancer with and without a photodynamic diagnosis using 5-aminolevulinic acid: a propensity score-matching analysis

→癌治療学会研究奨励賞受賞

Comparative Study Comparing Perioperative Outcomes Using Single and Multiple Robot Systems During the Learning Period for Robot-Assisted Radical Prostatectomy

大学で長年培った経験や技術を、中東遠地域の皆さんに役立てたい。

若返った分、泌尿器科のチーム一丸となって診療にあたりたい。

134



<目標達成のための具体的な方策>

- ①地域連携の強化
 - ・2026年4月より、紹介枠を1日6件→8件に増加
- ②ロボット手術件数の増加
 - ・2026年4月より、腎臓手術を火曜日にも施行
- ③新規手術の導入
 - ・小径腎癌に対するロボット支援腎部分切除術 → 腎温存が可能
 - ・前立腺肥大症に対するRezūm → 15分の手術、最短2日の短期入院
 - ・尿路結石に対するクリアペトラ → 短時間手術＝感染リスク低下
 - ・完全ロボット支援下腎尿管全摘除術 → 創部を小さく、手術時間は短く

<今後の目標>

ロボット支援腎盂形成術の導入

135



決 意

手術の安全。
地域連携を強化することを通じ、
最新かつ低侵襲な医療を
チーム一丸となって提供する。



令和8年度 診療科目目標発表

皮膚科・皮膚腫瘍科

Dermatology・Skin Oncology

140



皮膚科・皮膚腫瘍科



	氏 名	役 職	専門医
1	大塚 正樹	(統括) 診療部長	皮膚科専門医、皮膚悪性腫瘍指導専門医
2	戸倉 新樹	参与 兼 診療部長 兼 中東遠アレルギー疾患研究センター長	皮膚科専門医
3	森下 ナオミ	部長	皮膚科専門医
4	柚木 茉里那	医長	皮膚科専門医

141



皮膚科・皮膚腫瘍科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標
1日あたり入院患者数（人）	7.5	6.8	8.7	9.9	7.3	9.0
新入院患者数（人／月）	23	21	22	25	20	24
手術件数（件／月）	25	29	24	28	32	33
紹介患者数（人／月）	101	104	103	94	105	105

142



皮膚科・皮膚腫瘍科

令和8年度 目標

2 医療の質向上

	項 目	目 標
1	皮膚科診療の習熟	幅広い皮膚疾患の治療に精通
2	炎症性皮膚疾患に対する薬物療法の強化	治療に難渋する症例を積極的に受け入れ、基幹病院ならではの治療を提供
3	皮膚がんに対する適切な術前病期診断の実施	適応症例におけるセンチネルリンパ節生検実施率80%以上
4	皮膚がん薬物療法の適正使用と有害事象管理	有害事象モニタリング体制の標準化と多診療科連携の深化

143

3 経営改善

	項 目	目 標
1	手術件数の拡大	手術件数過去最多の更新 植皮・皮弁を要する症例の比率向上
2	皮膚がん集約・PR強化	悪性腫瘍手術件数前年比+15%
3	レーザー外来の新設	周辺医療機関へ周知、症例の獲得

144

4 専攻医の確保・教育研修

	項 目	目 標
1	専攻医の確保	皮膚科領域に関する教育指導を充実させ、 皮膚科志望医師を毎年1名確保
2	教育研修	年4回以上の学会・研究会に参加、年3回以上の発表

145

5 当科の特徴・強み

1 「最後の砦」となる専門性

- ・悪性黒色腫、壊死性筋膜炎、Stevens-Johnson症候群等の重症薬疹など、**市中病院で対処困難な疾患においても診断から治療まで完結可能。**
- ・上記疾患全てに対応可能な皮膚科は県内唯一と自負。

2 皮膚がんを一貫治療

- ・皮膚腫瘍科を標榜。
- ・**皮膚がんを手術から薬物療法まで一貫対応。**

3 アレルギー疾患研究センター運営

- ・様々な皮膚アレルギー疾患に対応可能。
- ・専門外来としてアレルギー外来開設。

4 県内有数の実績と教育

- ・入院患者数、手術件数は県内有数。
- ・大学病院以外では県内初の**専門研修基幹施設。**

146

6 今後取り組んでいきたいこと

研修基幹施設として「中東遠ブランド」の確立

魅力ある研修プログラムで安定的に専攻医を受け入れ、教育の場を提供し、育成する。

静岡県における皮膚科診療の中心施設となる

- ・アレルギー疾患研究センターを運営しており、**内科的皮膚科**に強い。
- ・皮膚腫瘍科を標榜しており、**外科的皮膚科**に強い。

地域の中核病院としての役割を果たしつつ、上記の「2本柱」で医療圏の枠を超えた診療科へ成長する。

147

7 地域のために貢献できること

市民の皆さまへ

1

皮膚軟部組織感染症・薬疹、
皮膚がん治療において
医療圏外の中核病院や大学
病院へ行かずとも当科で完結
できます。

行政の皆さまへ

2

中東遠医療圏で皮膚科
専門医を育てる基幹施設
として地域医療を支え、
医療圏の医療水準向上に
貢献します。

開業医の先生方へ

3

皮膚科領域疾患のほぼ全て
に対応可能です。

ご紹介、何卒よろしくお願
いいたします。

148

決意

皮膚疾患の「最後の砦」として

皮膚科診療の質を高め、治療成績を向上させ、患者ニーズに応えていきます。

149



令和8年度 診療科目目標発表



眼科 Ophthalmology

152

眼科



	氏 名	役 職
1	堀田 喜裕	院長 兼 がん総合診療センター長 兼 がんゲノム診療センター長
2	田中 彩乃	部長（診療科長） 兼 中東遠アレルギー疾患研究センター部長
3	水野 文博	医長
4	山下 理実	医長
5	小笠原 慎一	医員

153



眼科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標
1日あたり入院患者（人）	7.8	9.4	9.9	8.7	8.5	8.0	8.0
新入院患者数（人／月）	69	82	100	102	95	87	80
手術件数（件／月）	104	137	155	160	165	166	150
紹介患者数（人／月）	73	97	106	105	108	104	100
逆紹介患者数（人／月）	44	51	63	64	57	107	60

154



眼科

令和8年度 目標

2 医療の質向上 診療の効率化と質の向上

	項 目	目 標
1	網膜硝子体手術	緊急性の高い疾患に早期に加療いたします。 難疾患も安全に加療できるよう、最新の技術を取り入れ続けます。
2	低侵襲緑内障手術	デバイスの進化が続いており、術式も増えています。 これまでの実績から、最新デバイスも他施設に先駆けて導入出来ています。使い分けることで最適な治療を検討していきます。
3	専門外来	堀田医師による網膜変性外来（毎週月曜日） 浜松医大彦谷先生による斜視外来（毎月第3金曜日） を行い専門性の高い外来診療を行います。
4	アイモSCAN（人間ドック）	人間ドックで自覚症状のない緑内障等の疾患を早期に見つけることで早期の治療介入を行っていきます。

155



アイモscanについて

緑内障などによる視野異常の検出を目的とした
健診施設向けの視機能評価機

- ・簡単な操作
- ・最短 1 分40秒の検査時間
- ・眼鏡、コンタクトの着脱不要



緑内障の特徴

失明原因
の第1位

40歳以上の
約20人に1人

未診断率
が高い

初期には
自覚症状
がない

失われた
視野は戻
らない

緑内障において最も重要なのは **早期発見・早期治療**

156



3 経営改善

	項 目	目 標
1	無駄のない診療体制	外来・手術への適切な人員配置で時間内の効率を上げる
2	手術患者の受け入れ継続	1日当たりの手術件数を無理なく増やし、適切な期間での受け入れを継続する
3	片眼白内障手術割合の増加	6月の診療報酬改定により平均6.5万円程度の減収となる水晶体再建術（両眼）の割合を減らす

157



4 専攻医の確保・教育研修

数年後に必要となることへの投資

	項 目	目 標
1	研修医の確保と教育の充実	ローテートした研修医への個別指導
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

158



決 意

**中東遠地域の基幹病院として、
地域の先生方と連携を取り、
今後も最適な医療を提供できればと
思います。**

159



令和8年度 診療科目目標発表



耳鼻いんこう科 Otorhinolaryngology

160



耳鼻いんこう科



	氏 名	役 職
1	杉山 夏樹	部長（診療科長）
2	竹内 実喜子	医員
3	松下 賢悟	医員 兼 救急科医員
4	中嶋 慎太郎	医員

161



耳鼻いんこう科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標
1日あたり入院患者（人）	12.3	9.9	9.8	10.5	11.1	10.5	14.0
新入院患者数（人／月）	45	37	36	42	49	47	45
手術件数（件／月）	21	16	22	24	32	31	32
紹介患者数（人／月）	102	110	129	146	144	144	145
逆紹介患者数（人／月）	27	25	32	42	32	23	35

162



耳鼻いんこう科

令和8年度 目標

2 医療の質向上

	項 目	目 標
1	新たに導入した手術器械や検査の増加	鼻副鼻腔手術におけるマイクロデブリッター、鉗子類の充実
2	新たに導入した治療法	難治性副鼻腔炎に対する生物学的製剤の導入

163

3 経営改善

	項 目	目 標
1	手術件数の維持・増加	手術技術向上、時間短縮、 手術件数の維持・増加（32件／月）
2	外来枠の調整	地域の連携病院からのスムーズな受け入れ、 また病状が安定した患者の逆紹介

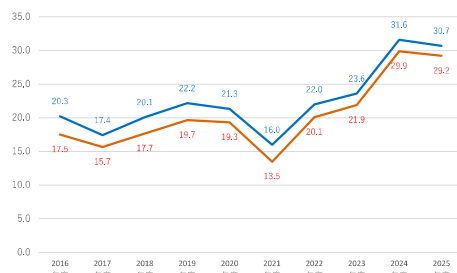
164

4 専攻医の確保・教育研修

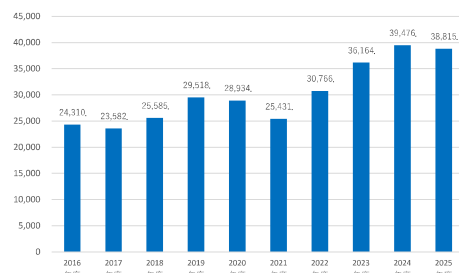
	項 目	目 標
1	大学と連携した教育体制の強化	専門医、専攻医の確保、育成
2	専攻医指導体制の強化	学会参加・発表、論文作成

165

耳鼻いんこう科 手術件数（月平均・件）



耳鼻いんこう科 総収益（月平均・千円）



166

耳科手術	46 件
鼓室形成術	件
慢性中耳炎	件
真珠腫性中耳炎	件
鼓膜チューブ挿入術	27 件
人工内耳手術	件
アブミ骨手術	件
顔面神経減荷術	件
先天性耳瘻管摘出術	件
外耳道形成術	6 件
鼓膜形成術	件
乳突削開術	件
試験的鼓室開放術	件
中耳根本術	件
内リンパ嚢開放術	件
聴神経腫瘍摘出術	件
鼓膜切開術	13 件
鼻科手術	413 件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	183 件
鼻中隔矯正術	126 件
鼻甲介切除手術	44 件
視神経管開放術	件
涙嚢・鼻涙管手術	件
眼窩吹き抜け骨折手術	件
顎・顔面骨折整復術	件
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	7 件
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	件
経鼻的顎突管神経切断術	53 件

口腔咽喉頭手術	250 件
扁桃摘出術	170 件
口蓋扁桃摘出術	57 件
舌・口腔、咽頭腫瘍摘出術	7 件
口蓋鼻・軟口蓋形成術	件
舌・口腔良性腫瘍摘出術	3 件
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	1 件
咽頭良性腫瘍摘出術	3 件
咽頭悪性腫瘍摘出術	件
喉頭摘出術	15 件
喉下・咽嚥防止、音声改善手術	0 件
喉下機能改善	件
咽嚥防止	件
音声機能改善	件
（うち声帯水（リブ）切開）	件
喉嚢形成術	件
喉嚢拡張術	件
咽喉頭手術	69 件
頸部郭清術	3 件
頸下腺	4 件
耳下腺	9 件
甲状腺	18 件
甲状旁腺	1 件
Basedow病手術	10 件
喉嚢	件
リンパ節手術	11 件
頸部腫瘍摘出術	2 件
頸下腺摘出術	4 件
食道異物摘出術	件
気管異物摘出術	件
異物摘出術	件
（外耳・鼻・咽頭）	件
気管切開術	4 件
上気道小体摘出術	2 件
深頸部腫瘍切開術	1 件

全身麻酔件数：372件（前年：339例）

167

手術支援機器、鉗子類の充実により安全で確実な手術が短時間で可能に



マイクロデブリッター



磁場式ナビゲーションシステム



Bizact

168

例) 汎副鼻腔炎、鼻中隔彎曲症、肥厚性鼻炎に対して

両側内視鏡下鼻副鼻腔手術IV型	32,080点 × 2
内視鏡下鼻中隔手術I型	6,620点
両側内視鏡下鼻腔手術I型(下鼻甲介手術)	7,940点 × 2
計	86,660点



令和6年から新たに保険適応

内視鏡下鼻中隔手術III型(前弯矯正術)	29,680点
----------------------	---------



169

決意

ご紹介いただく開業の先生方との
連携を密にします

今後も高度で信頼される医療を
患者様に提供し続けます

170



令和8年度 診療科目目標発表



放射線診断科 Diagnostic Radiology

172

放射線診断科



	氏 名	役 職
1	石原 雅子	診療部長 兼 PETセンター長 兼 人間ドック・健診センター診療部長
2	池田 隆展	医長

173

放射線診断科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標
CT (件/年)	29,900	31,870	28,149	29,519	32,820	30,410	32,000 (7,653)
MRI (件/年)	7,946	8,367	8,176	8,036	8,489	9,225	9,500 (2,324)
PET-CT (件/年)	500	499	664	629	668	630	600 (173)
SPECT (件/年)	538	549	602	679	882	853	800 (188)
IVR (件/年)				2	30	48	45 (15)

※ () 内は4-6月時点の件数
※IVR件数は前任者が施行した件数は含みません

174

放射線診断科

令和8年度 目標

2 医療の質向上

	項 目	目 標
1	画像検査	画質向上、検査時間短縮、予約待ち期間短縮
2	画像検査に対する読影業務	重要所見・偶発所見への対応整備
3	IVR (画像下治療)	IVR依頼への対応

175

放射線診療部トピックス

IVR

IVR 外来開設のお知らせ

2026 年 4 月から放射線科にて IVR 枠を開設いたします。当枠内で IVR 相談・説明・手技(時間内に可能なもの)を行います。IVR 相談がありましたらお気軽にご紹介ください。v

・曜日：毎週月曜日(13:30~17:30)

・場所:2 階放射線科外来、

・担当医師:棚橋 裕吉(浜松医科大学 放射線診断学講座)

IVR 外来について、

- 基本的には IVR 外来を中心としますが、外来受診しただいた患者様で、当院で施行可能な手技については、IVR 外来枠を用いて当方で手技を行います(入院が必要な手技については従来通り入院管理を依頼科に御願致します)。当院で手技が難しい症例については、本外来から浜松医科大学放射線診断科の IVR 外来へ紹介させていただきます。
- 火曜日午後の IVR 手技枠は継続致します(緊急・準緊急症例など)。基本的には常動放射線科医師が窓口となります。

176

3 経営改善

	項 目	目 標
1	画像検査	画像検査数向上
2	画像検査に対する読影業務	読影効率向上
3	IVR：マンパワー確保	対応する手技拡大

178

放射線診療部トピックス

新規PACSシステム導入



※PSP株式会社様の資料から引用

177

4 専攻医の確保・教育研修

	項 目	目 標
1	放射線科専門医修練施設認定	専攻医受け入れ体制の整備
2	初期研修指導	初期研修医への読影指導 放射線診断科の魅力アピール

179



決 意

最適な画像検査の提供、
画像検査レポート作成を通じて
中東遠地域の医療に貢献します。



令和8年度 診療科目目標発表



腫瘍放射線科 Radiation Oncology

184



腫瘍放射線科



	氏 名	役 職
1	平田 真則	部長（診療科長）
2	若林 紘平	代務医師
3	山下 倫太郎	代務医師
4	芹澤 琢磨	代務医師

185



腫瘍放射線科

令和8年度

目標

腫瘍放射線科の特徴・PR

- あらゆる悪性疾患に加え、一部の良性疾患も治療対象としている。
- 放射線治療単独、あるいは集学的治療のひとつとしての根治的照射から症状緩和照射まで幅広い治療に対応している。
- 強度変調放射線治療（IMRT）や定位放射線治療（STI）を積極的に選択し、より効果的で安全な治療を目指している。
- 放射線治療専門医に加え、がん放射線療法看護認定看護師、2名の医学物理士を擁しており、より充実した診療体制となっている。
- 来年度は新しい治療機器2台が導入となる予定で、さらに高精度な治療が提供可能となる。

186



腫瘍放射線科

令和8年度

目標

1 診療目標：治療件数の増加

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標
1日あたり照射患者数（人）	22.3	20.1	19.1	18.5	19.3	20.6	25
放射線照射件数（件／月）	482	505	498	508	522	483	550

187

2 医療の質向上 照射方法の適切な選択と精度の向上

	項 目	目 標
1	患者さんに適した緩和照射体制の構築	在宅療養・施設等に移行し、連日の通院や入院が困難な患者さんに対して、準備から実際の治療まで日帰りで行う単回照射を提供する体制を整える。
2	適応病態の案内・周知	骨転移だけでなく、通過障害、皮膚転移、肝転移、腫瘍出血など、緩和照射の多様な適応病態について院内外に勉強会・緩和ラウンド等を通じて案内する。

188

3 経営改善

	項 目	目 標
1	高精度放射線治療の割合増加	緩和症例においても、より低侵襲で有効な治療を目指し、強度変調放射線治療を適用する。オリゴ転移や骨転移に対する定位放射線治療を積極的に提示・実施する。
2	治療計画作成の効率化・時短化	放射線治療計画作成に係る労力や時間を軽減するために、ワークフローやプロトコルをより効率的なものへと整備する。

189

4 専攻医の確保・教育研修 教育体制の強化と研修医の確保

	項 目	目 標
1	教育体制の強化	浜松医大との連携、協力関係を維持する
2	研修医の確保	放射線診断科と連携し、希望者は腫瘍放射線科での研修も選択できる体制を整備する

190

決 意

- 1 新機種2台体制を見据え、高精度照射の件数を増加させ、より安全かつ効果的な治療とするためのプロトコルや効率的なワークフローを構築します。
- 2 緩和照射は、院内だけでなく院外へもPRし、アクセシビリティやクオリティの向上・件数増加を目指し、地域の患者さんの治療に貢献します。

191



令和8年度 診療科目目標発表

麻酔科

周術期管理 / 手術センター



192



中東遠麻酔科のメンバー紹介

手術を支える

- 安全な手術管理
- 高難易度手術
- 心臓血管外科

重症を支える

- 緊急手術対応
- ICUとの連携
- 高度急性期医療



池田優 石野起也 内山智浩 鈴木慎 鈴木祐二 鈴木みどり 北原里恵 山本洋子

回復を支える

- 術前術後回診
- 周術期疼痛管理
- 早期離床支援

痛みを支える

- ペインクリニック
- 慢性疼痛治療
- 緩和医療

この8人のメンバーで麻酔科の運営をしています

193



1. 病院縮小への不安

病院の統廃合が進んでいる。中東遠地域の医療体制は今後維持され、必要な時に頼れる場所が継続されるのか？

2. 救急時の受診

夜間や休日、急な発病や受傷の際に、確実に受け入れてもらえるのだろうか？

3. 重い病気でも地域で治せる？

がんや高度な治療が必要な際、遠方の病院に行かずとも地域で治療が完遂できるのか？

1. 地域医療の基盤強化

救急・手術・入院・重症管理を整え、地域全体の医療提供体制を支える。病院機構としての経済的独立を目指す。

2. 救急・重症患者を受け止める

手術室・ICU・麻酔科が連携し、重症患者を受け入れる「高度急性期プラットフォーム」を構築する。

3. 早期手術から社会復帰までを支える

迅速な手術、早期リハビリ(手術前からのプレリハビリテーション)で、単に「治す」だけでなく、「生活に戻る」までを継続的に支援「働き続けたい」「家に帰りたい」を形に。

194



麻酔科が支える、地域医療の解決力

地域医療の基盤強化

心臓血管外科の開設
高度手術を支える
手術センター機能を強化



麻酔科
病院のエンジン・高度急性期の要
手術・救急・集中治療を一体化させ、
病院全体の機能を最大化させる 中核組織

早期手術から社会復帰までの支援

プレリハビリテーション
周術期疼痛管理
早期離床・リハビリ支援
プレリハビリや周術期疼痛管理により、スムーズな社会復帰を後押し

救急・重症患者の受け止め

24時間体制で救急から手術へ迅速につなぐ

急性期拠点病院として維持すべき診療実績の目安(令和8年度診療報酬改定の実施要件に基づく)

救急搬送受け入れ件数 年間 2,000 件以上

全身麻酔手術件数 年間 1,200 件以上

ICUと連携して重症患者を支える

地域で受け止め、治療へつなぎ、生活へ戻す

195



本年度の決意

私たちは、地域で必要な手術を、
地域で安全に完結できる体制をつくります

- 心臓血管外科手術と緊急手術を安全に定着させる
- 術前から術後まで関わり、早期回復と社会復帰を支える
- 麻酔科医を育成し、将来も続く診療体制をつくる

**「手術を受けるなら中東遠」
とっていただける病院を目指します**



令和8年度 診療科目目標発表

リハビリテーション科 Department of Rehabilitation Medicine

200



リハビリテーション科



	氏 名	役 職
1	渡邊 浩司	診療部長
2	勝山 貴博	医長
3	内藤 隆行	専攻医・代務医師

201



リハビリテーション科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標
入院患者数（人／月）	0	0.2	0.8	1.3	1.7	2.0	3.0
外来患者数（人／月） 外来件数（人／月）	129	198 784	268 860	1,100	1,217	1,306	1,000
ボツリヌス治療件数	0	84	138	181	247	441	500
心肺運動負荷試験	0	17	75	60	54	83	100
嚥下造影検査	約 100	200	155	146	58	45	50

202



リハビリテーション科

令和8年度 目標

2 医療の質向上

外来・入院を中心とした診療機能の強化
専門的なリハビリテーション医療の提供

	項 目	目 標
1	適切なリハビリテーション医療の提供	各診療科へリハビリ処方箋の指導 業務移行
2	専門外来の拡充	歩行・装具の専門外来の開設 各専門外来の拡充
3	術後合併症の減少と術後入院期間の減少	ICU・救急病棟でのリハ早期介入 ICU・ECUカンファ 周術期リハビリテーション 心臓血管外科のリハビリパス作成
4	リハビリテーション医療の質の向上	リハビリスタッフの教育・指導
5	災害対策	静岡県JRAT（災害リハビリテーション支援関連 防災訓練11月15日 団体協議会）の講習受講スタッフの増加 災害時の対応システムの構築

203

3 経営改善

	項 目	目 標
1	入院患者への 休日リハビリの提供	令和8年度4月中旬より、休日リハビリを提供しています。 シームレスなリハビリを行うため当科専門医とスタッフの連携強化。 入院早期から介入して、入院期間の短縮と機能維持・改善する。
2	専門外来の充実	障害予防や競技レベル復帰のリハビリ質の向上 表面筋電図での計測や動作分析を開始 体外衝撃波による物理療法の開始
3	自費リハビリの導入	障害予防教室や腰痛教室など

204

4 専攻医の確保・教育研修 初期研修医への指導、専攻医の確保

	項 目	目 標
1	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化。 他病院との差別化を図り、 研修医の確保につなげる。
2	専攻医への教育を充実	浜松医大 聖隷グループ 東海大学 連携協力病院に認定済。

205

手術前・後のリハビリテーション
リンパ浮腫リハビリテーション
自動車運転の再開の専門外来
ボツリヌス治療専門外来
顔面神経麻痺リハビリテーション専門外来
歩行と装具の専門外来
義肢・装具外来（車いす・下肢装具・義肢）
書類外来（身障・精神手帳、年金、後遺症）

206

決 意

地域住民の方が、可能な限り住み慣れた環境で口から食べ、自分で歩き、生きがいを持って日常生活を送れるよう、全力でサポートします。

あらゆる疾患に対する質の高いリハビリテーション医療を提供し、地域医療に貢献します。

207



令和8年度 診療科目目標発表

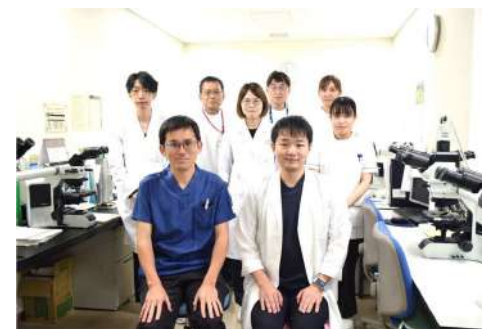


病理診断科

Department of Pathology

208

病理診断科

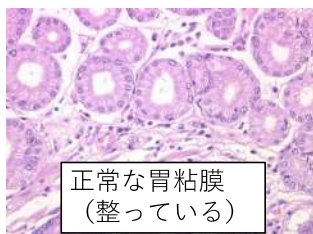


	氏 名	役 職
1	鈴木 大介	部長（診療科長）
2	望月 駿佑	医員

209

病理診断科

- ・病理診断科とは？→「病理診断」をする診療科
- ・「病理診断」とは？→細胞や組織を顕微鏡にて観察して病気を診断すること
- ・病理→病気の原因・過程に関する理論的根拠（デジタル大辞典）



正常な胃粘膜
(整っている)



胃癌の組織
(いびつ→不整)

病院だより
「きんもく
せい」
R2/3月号より引用

210

病理診断科

令和8年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標
細胞診（件／年）	7,506	7,964	8,150	8,302	8,404	7,885	8,500
組織診（件／年）	4,586	5,345	5,729	5,786	5,814	5,884	6,000
病理解剖（件／年）	12	11	12	10	11	6	15

211

2 医療の質向上

病理診断件数の維持・増加
遺伝子解析技術の取得

	項 目	目 標
1	病理診断件数の維持・増加	細胞診 8,500件/年 組織診 6,000件/年
2	病理解剖件数・臨床病理検討会回数 (CPC) の維持・増加	病理解剖15件/年 CPC 7回/年
3	がんゲノムプロファイリング検査 (CGP) によるエキスパートパネルへの参加	当院でもCGP検査施行可能となったことで、その手助けにより質向上に努めたい

212

3 経営改善



←手術材料（大腸）の
切り出しをする病理医の図

	項 目	目 標
1	診断に要する標本数削減	すでにかなり削減しているが、診断の質を下げずに、標本数を減らしたい（手術材料における病理医の切り出し標本数など）。
2	コスト（保険点数）の取得推進	Ventana社の染色装置導入により、今後のコスト取得やTAT（turn around time）の短縮を実行推進（後述）。

213

最新の全自動染色装置、入りました！



・今年5月、ロシュ・ダイアグノスティックス社の自動免疫染色装置（商品名：BenchMark ULTRA PLUS）稼動開始！

・主要なメリット
→収益性改善
(保険点数付与/外注検査減少)
→癌治療方針決定の迅速化
(4週間→1週間となる例も)

・病理管理加算上昇/特殊染色加算追加も決定(余談ですが)

214

4 専攻医の確保・教育研修

まず病理の重要性について知ってもらう

	項 目	目 標
1	病理に理解ある医師の育成	病理診断科を研修する研修医数 3人/年
2	病理と臨床の関連性への理解向上	臨床病理検討会（CPC） 7 回/年

215



決 意

各科医師と協力して適切な病理診断を行うことで
もたらされる診療の質向上が、患者さんの満足に
繋がると考えます。上記を念頭に日々努力を重ね
ていきたいと思えます。



令和8年度 診療科目標発表



歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery

220



歯科口腔外科



	氏 名	役 職
1	夫 才成	診療部長
2	新阜 宏平	部長
3	太田 優也	部長
4	鈴木 秀祐	医長
5	桑原 良英	非常勤歯科医
6	清水 美咲	研修歯科医

221



歯科口腔外科

学術活動

- ・ 2024年 顕微鏡を用いた低侵襲手術により顎変形症学会にて優秀ポスター賞
- ・ 2025年 口腔顎顔面外傷診療ガイドライン改訂のシステムティックレビューに参加
- ・ 2025年 第3回しずおか口腔ケアフォーラムを主催
(テーマ：生涯現役を目指す口腔リテラシーとは)
- ・ 2026年 名古屋大学を含む4施設共同研究に参加予定
「経口避妊薬/低用量エストロゲン・プロゲステン配合剤休業と静脈内鎮静法を併用した
拔牙におけるドライソケットに関する多機関後向き研究」 (倫理審査中)
- ・ 2026年 次年度に改訂予定の口腔癌診療ガイドラインの策定に参加

222



歯科口腔外科

学会活動：

- 代議員 日本口腔外科学会、日本口腔インプラント学会
- 指名理事 日本病院歯科口腔外科協議会
- 評議員 日本口腔ケア学会

223

在籍医の資格：

- ・日本口腔外科学会専門医、認定医
- ・日本口腔インプラント学会専門医
- ・日本顎変形症学会認定医・指導医
- ・日本口腔科学会認定医
- ・日本口腔ケア学会病院総合歯科医師指導医
- ・医学博士

224

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標
1日あたり入院患者数（人）	4.6	5.0	5.1	6.2	6.2	5.7	8.0
新入院患者数（人／月）	55	56	61	68	71	65	73
手術件数（件／月）	24	28	29	33	31	28	35
紹介患者数（人／月）	186	178	183	198	198	196	199
逆紹介患者数（人／月）	136	146	160	165	164	151	167

225

2 医療の質向上

	項 目	目 標
1	オーラルフレイルの啓発活動	・ 院内院外に向けて講演活動、市民の口腔リテラシーの向上
2	オーラルフレイル健診	・ オーラルフレイルを早期発見し、地域の健康長寿に繋げる
3	嚥下チームへの参加	・ リハビリ科医師および言語聴覚士との連携

226

3 経営改善

	項 目	目 標
1	インプラント	口腔リテラシーの向上、オーラルフレイル健診と連携
2	顎変形症治療の啓発活動	市民への情報提供、連携矯正医の増加
3	人間ドック	オーラルフレイル健診の啓発

227

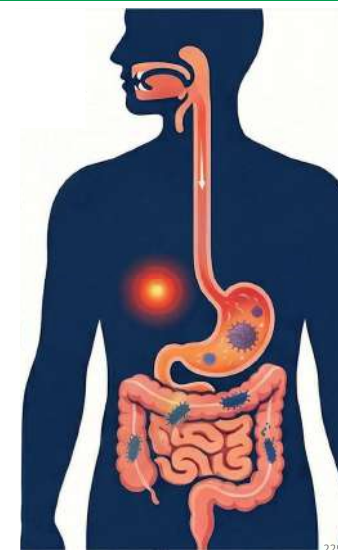
4 専攻医の確保・教育研修

	項 目	目 標
1	研修医の勉強会	・麻酔研修の準備 ・有病者の周術期管理
2	各学会の指導医、専門医取得に向けて	・経験症例の蓄積 ・抄読会、地域連携カンファ、学会報告 ・学会誌および院内誌への論文投稿
3	ガイドライン、システマティックレビュー	・若手教育

228

口腔外科より伝えたいメッセージ

歯を失うと
がんリスクは上がるのか？



229

衝撃の事実：歯の喪失と 消化器がんリスクの関連データ



230

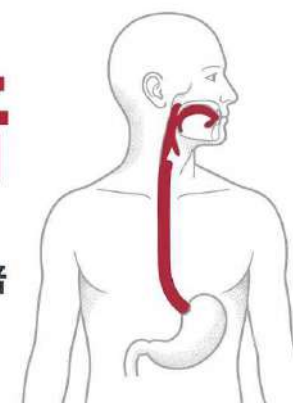
「食道がん」リスクは

2.36倍

歯をすべて失った人の
「食道がん」リスクは2.36倍

（残存歯数21本以上のグループとの比較 /
95%信頼区間 1.17-4.75 / P trend = 0.002）

*用量反応関係あり

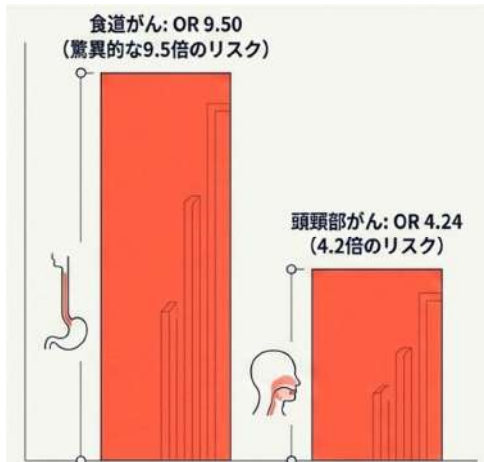


Hiraki_2008



231

さらに、非喫煙者に限定すると、残存歯0～8本では**9.5倍**に！！



Hiraki_2008

Teeth Loss and Risk of Cancer at 18 Common Sites in Japanese
Hiraki, H. et al. J Dent Res 2008; 87: 1111-1116

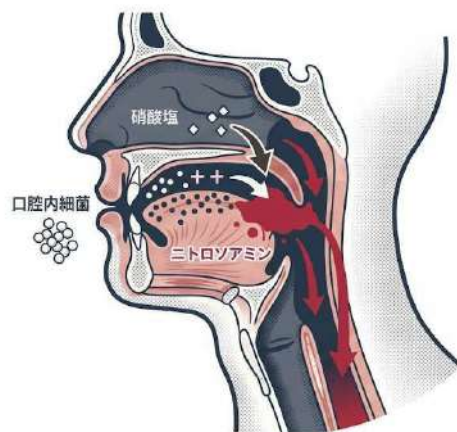
232

歯周病と歯の喪失が実はかなり**危険**

食道がんのリスクが増える

233

考察1: **歯周病**を放置すると、、、



口腔内細菌が増加し

発癌物質「ニトロソアミン」が生成される

食道は口腔内と直接繋がる部位

ニトロソアミンの影響を直接、受け続ける

234

考察2: **歯の喪失**を放置すると、、、



咀嚼能力が落ちることで、がん予防効果のある野菜や果物の摂取量が減少する。



大きな塊のまま食物を飲み込むことで、口腔や食道の粘膜に物理的な損傷・摩擦を与え続ける。

235

歯周病



オーラルフレイル健診で早期発見と対策を！

4月よりオーラルフレイル健診で、口腔内の細菌定量検査を開始。
しばらく歯科医院に受診していない方は、人間ドックの際にオプションで受けていただき、
早期発見と早期対策の機会としてください（治療は一般歯科医院で）

236

歯の喪失

歯を失った部位は放置せず

入れ歯やインプラントによって
噛める歯を回復しておく

特にインプラントは、
自分の歯に近い形で、噛む力を
回復することが可能

インプラントで噛む力はどれくらい回復する？



食道がんリスクを減らせる可能性

237

中東遠総合医療センターの歯科口腔外科は

口腔外科専門医と

インプラント専門医の

双方が在籍する県内唯一の施設



- ・一般歯科医院からの紹介が必要
- ・当院での治療が必要な際には、ご依頼ください

238

決意

診療科ミッション：患者さんを笑顔で帰す

口腔リテラシーを高め
地域の生涯現役に貢献する

239

令和8年度 診療科別目標発表会

救急科・集中治療科

Emergency and Critical Care Medicine

240

救急搬送件数 (令和7年度)

6,963人

241

ドクターカー出動件数 (令和7年度)

441件 (1日平均2.4件)

242

私たちの3つの約束

1

救急救命士
増員

2

人材
育成

3

業務効率化
追求

持続可能な救急医療体制

地域全体の安心

243

令和7年救命救急センター

充実段階評価

救命救急センター

Emergency and Critical Care Center

救急車専用口

Ambulance Entrance

4位

244

病院機能評価



S評価

245

「人」への投資

1 救急救命士の最大限の活用

休日・夜間の受け入れ強化
職種の垣根を超えたタスクシェア

2 人材育成

研修医・専攻医の育成(専門医プログラム基幹施設認定)
特定行為看護師の育成

246

当院からの転院搬送



86件 (80%)

247

「人」への投資

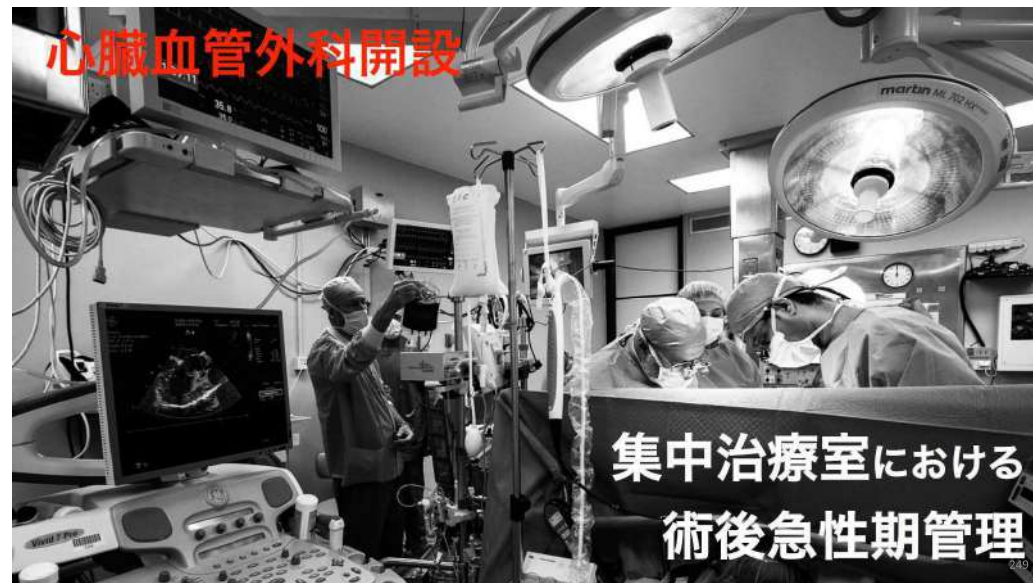
1 救急救命士の最大限の活用

休日・夜間の受け入れ強化
職種の垣根を超えたタスクシェア

2 人材育成

研修医・専攻医の育成(専門医プログラム基幹施設認定)
特定行為看護師の育成

248



「人」への投資

1 救急救命士の最大限の活用

休日・夜間の受け入れ強化
職種の垣根を超えたタスクシェア

2 人材育成

研修医・専攻医の育成(専門医プログラム基幹施設認定)
特定行為看護師の育成

250



中東遠地域の救急医療



崩壊前夜

2026年度 診療科目目標発表



企業長

President

宮地 正彦

256

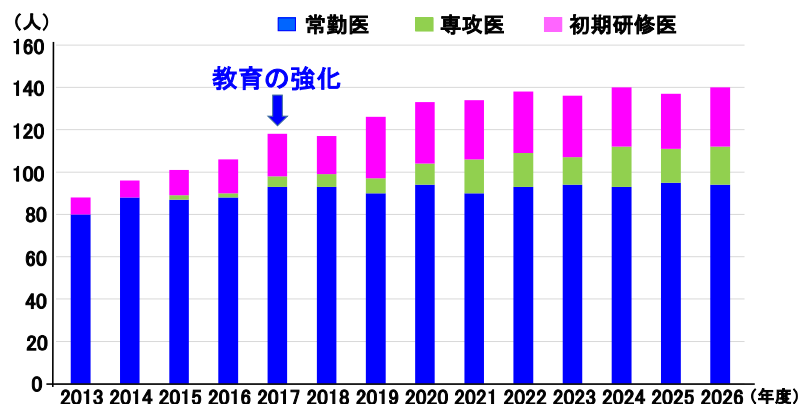
2025年度の取り組みの結果(1)

<医師確保について>

目 標	評価	内 容
常勤医師数の増員・確保	XXX ◎ ○ ◎ XX X ○	呼吸器内科医の著減(5→1人) (2027年4月に3人増加予定) 消化器内科医1人増加 放射線治療医1人増加 麻酔科常勤医1人増加 糖尿病・内分泌内科常勤医不在 血液・腫瘍内科医欠員のまま 専攻医5人入職 (内科3人、整形外科1人、小児科1人)
心臓外科医の開設	◎	心臓血管外科医2人

257

【常勤医、専攻医、初期研修医数の推移】

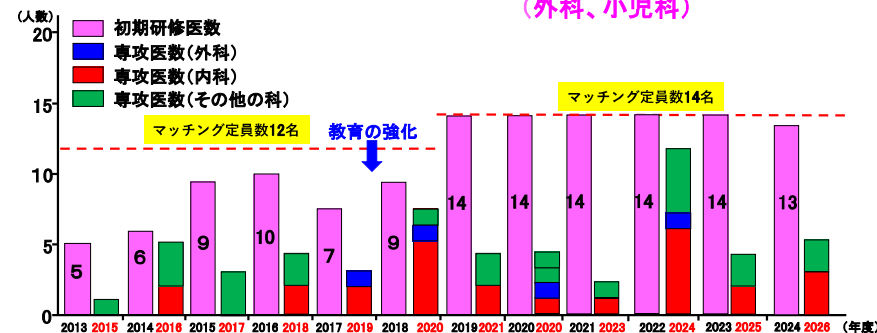


開院時から医師数は52人増加しているが、常勤医数の増加は14人に留まる。初期研修医、専攻医の増加で医師数が増加した。しかし、派遣医師の減少により縮小された診療科は少なくない(血液・腫瘍内科、呼吸器内科。)

258

【当院で研修することを希望する医学生数の変化】

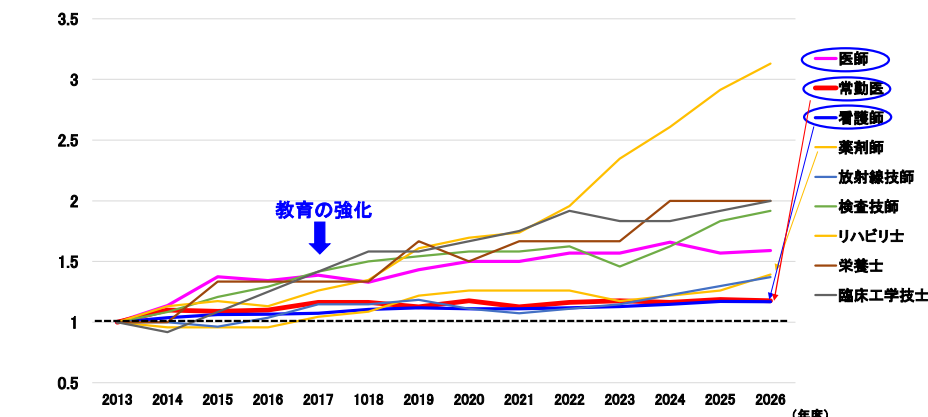
諦めないで専攻医を増やす工夫を: 専攻医基幹プログラムの増加
内科のみ ⇒ 内科、皮膚科、救急科、整形外科、麻酔科(2026年度)
(外科、小児科)



2018年度から5年間で外科に4名(女医3名)の専攻医が入局。専攻医教育体制を強化することで2024年度には内科専攻医の5人をはじめ、14人中12人が専攻医として当院に残った。

259

【病院勤務職員数の変遷】



開院後の常勤医師数は開院当初は増加したが、頭打ちとなっている。研修医、専攻医の増加により、医師総数は増加してきている。看護師、薬剤師数の増加は少なく、タスクシフトが進め難い。

260

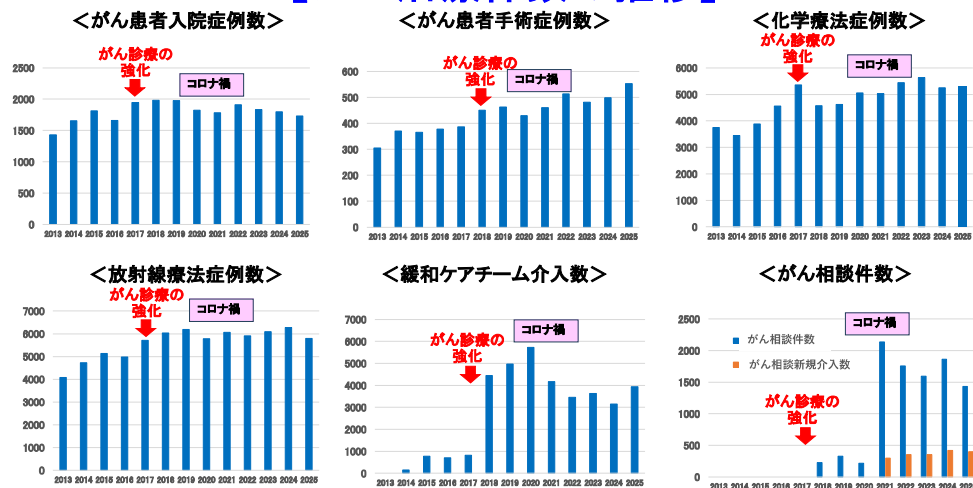
2025年度の取り組みの結果(2)

＜がん診療、救急医療について＞

目 標	評価	内 容
がん診療の充実	◎ ◎ ○ ▽ ○ ○ ◎	がん拠点病院指定維持 がんゲノム医療連携病院指定 がん関連手術の増加 外来化学療法室稼働減少 放射線治療数の増加 緩和ケアチーム新規介入件数増加 当院でドック後精査者の対応増加
救急医療の維持、向上	X ◎ ◎ ○ ○ ○	救急医数の減少:3→2人 救急救命士5→6人に増加 当院独自でドクターカー運用可能 ドクターカーの出動件数増加 救急搬送件数6,968件

261

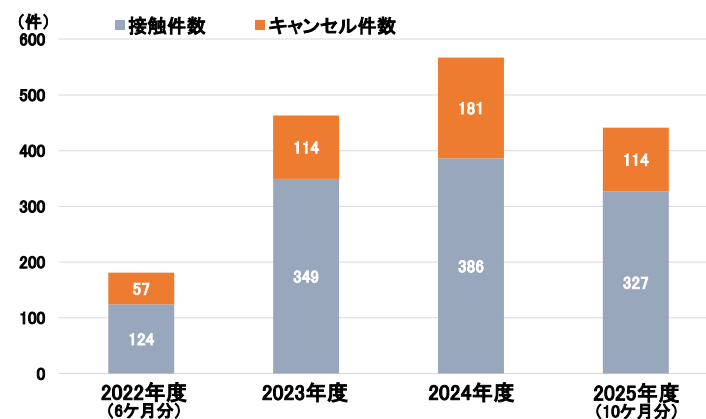
【がん治療件数の推移】



がん診療を強化することで、がん症例の治療件数は増加し、緩和ケア機能が著明に向上した。

262

【ドクターカーの運行状況の推移】



要請数が増え、接触件数も増加し、現場、または現場近くで医師が早期に救急対応できる機会が増えた。

263

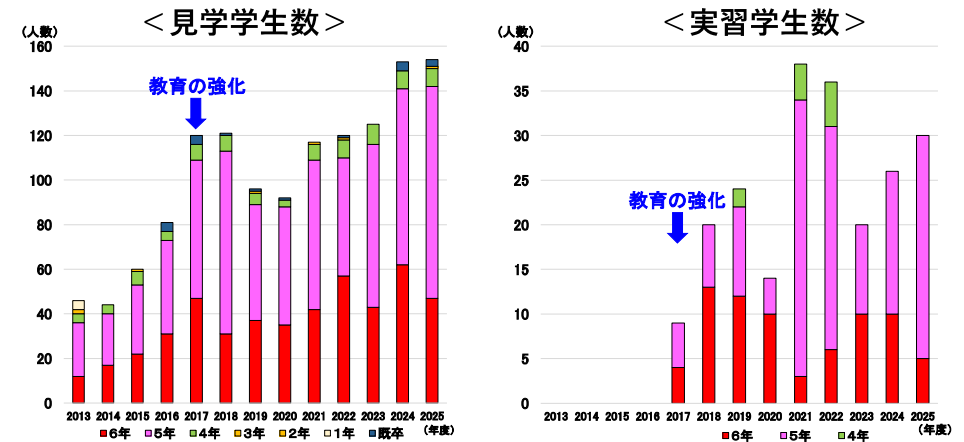
2025年度の取り組みの結果(3)

<教育について>

目 標	評価	内 容
教育の強化 (6年間継続強化の効果)	○	2週間以上の実習学生数の増加(20→25人)
	◎	マッチング希望者数の減少(55→42人)
	XX	見学学生数の増加(134→162人) →フルマッチできず(1人卒業できず) →戦略の再考
	◎	電子版病院機関誌「Chutoen Journal」の発行
	◎	全国自治体病院学会発表題数29題
大学との連携強化	○	6大学との実習教育の連携
	○	名古屋大学との共同研究増加
	◎	名古屋大学とのデータ共有化の推進
	◎	浜松医大の放射線診療・治療・教育のサポート
	◎	治験件数の増加
	○	

264

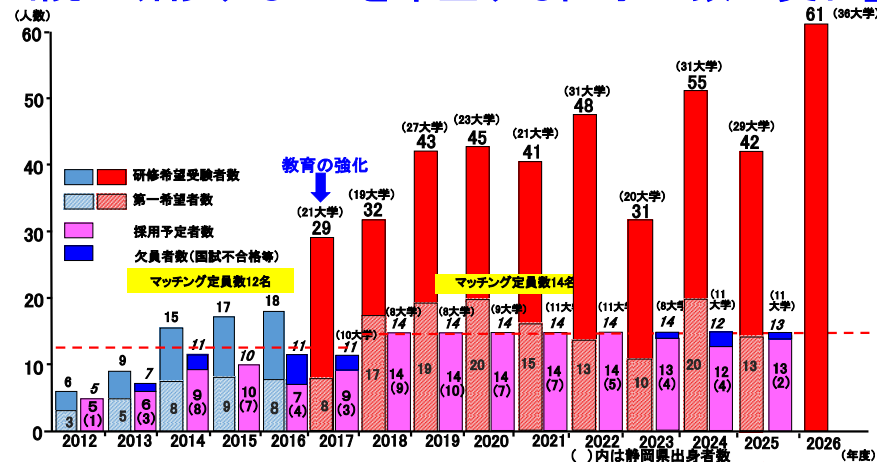
【当院を見学・実習する医学生延人数の変化】



2017年度から医学生への教育を強化し、交通費、滞在費を支給したことで、見学学生、2週間以上の実習学生が著明に増加した。実習では初期研修医と同様な実習体験をさせている。

265

【当院で研修することを希望する医学生数の変化】



2018年度から5年連続で初期研修医14人枠をフルマッチし、5年連続、全員が医師国家試験に合格した。診療科体制が不十分にもかかわらず研修希望者が増加している。

266

【初期研修医の全国規模研修医対象能力試験での成績】

当院の研修医は優秀です。彼らが救急医療の質を高めています。

教育の強化

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
研修1年目	212位	198位	82位	26位	28位	187位	153位	137位
研修2年目	342位	234位	37位	18位	73位	42位	207位	61位
総合	360位	169位	31位	15位	26位	61位	150位	69位
参加病院数	503	539	593	642	662	696	664	700

初期研修医は1年目の成長が顕著となり、2年目はさらに優秀に成長することで総合順位が著明に上がった。最近では2年目で成績が低下していたが改善した。教育は常に高みを目指すことが重要である。

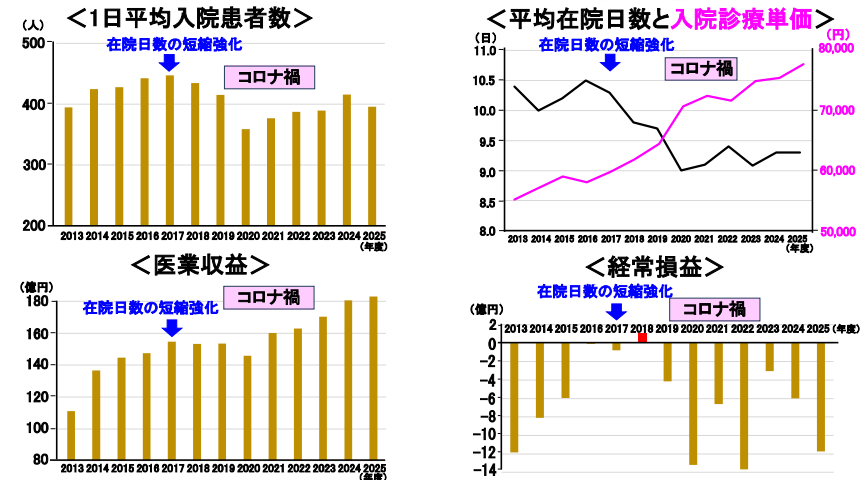
267

2025年度の取り組みの結果(4)

<経営について>

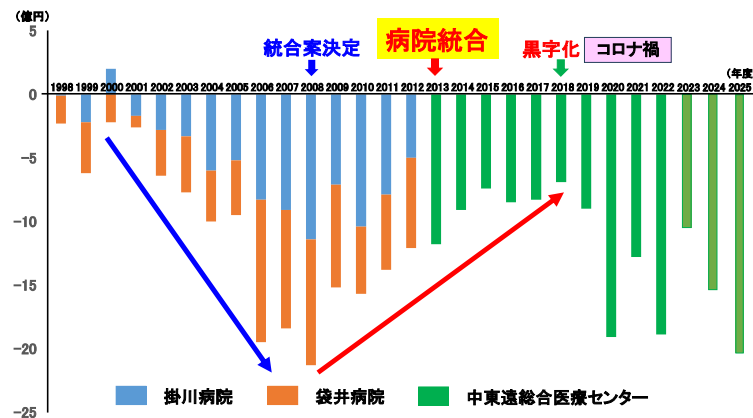
目 標	評価	内 容
経営の赤字からの脱却	X ↓ XXX	経常損益での赤字が増大 (-5億円台から-11億円台)
支出の削減	X ↓ XXX	光熱費、人件費の増額で支出増 人事院勧告通りに昇給
入院単価の向上 外来単価の向上	○ ○	76,678円から78,966円にアップ 18,485円から19,856円にアップ
入院稼働率の向上:90%	X→XXX	83.2%から79.2%にダウン

【開院後の医療業績の推移】



業務の効率化、在院日数の短縮により入院診療単価は高くなったが、入院患者が減少した。そのため医療収益が増加したが、経常損益での赤字幅が大きくなった

【統合前後の医療収支の推移】



2病院が統合することで医療損益は1/3ほどに減少した。医療内容が向上し、開院6年目に黒字化した。コロナ禍で収益は悪化し、その後も悪化が続いている。

1 地域医療への貢献

2025年度 運営目標

青字:達成 赤字:未達成

- 1) 医師充足への一定の道筋をつける
(総合診療科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、血液・腫瘍内科、心臓血管外科)
- 2) がん診療連携拠点病院として更なるがん診療機能の向上を図る
 - ・がん登録件数を1,300件/年以上とする → 1,291件/年
 - ・悪性腫瘍の手術件数を750件/年以上とする → 668件/年
 - ・がんに係る薬物療法の患者数を1,400件/年以上とする → 1,467件/年
 - ・放射線治療の患者数を350件/年以上とする → 272件/年
 - ・緩和ケアチーム新規介入件数を250件/年以上とする → 262件/年
 - ・がん遺伝子パネル検査の実施件数を10件/年以上とする → 21件/年
- 3) 1日当たりの入院患者を430人以上とする → 396人
- 4) 1月当たりのECU稼働率を95%以上(14床稼働)とする → 90.3%
- 5) 手術件数(手術室内)を6,600件/年(550件/月)以上とする → 6,604件/年
 - ・全身麻酔件数を2,500件/年以上とする → 2,363件/年
 - ・緊急全身麻酔件数を350件/年以上とする → 249件/年

1 地域医療への貢献

- 6) 手術件数(血管造影室内)を1,200件/年(100件/月)以上とする → 1,228件/年
- 7) 紹介件数を26,000件/年(2,167件/月)以上とする → 24,175件/年
- 8) 人間ドック・健診センターの受診者数を19,000件/年(80件/日)以上とする → 18,185件/年
 - ・人間ドック50件/日以上、健康診断・協会けんぽ30件/日以上とする
 - ・がんに関連する要精密検査(D判定)対象者の受診率を80%以上とする
- 9) 病院機能評価の認定(更新)を受ける → 更新認定
- 10) 院内PHSのスマートフォン化を進め、円滑な情報共有と業務効率の向上に活用する → 導入
- 11) ペーパーレス化を推進し、紙の使用枚数を2024年度比10%削減する → 5.2%増
- 12) 将来に向けた病院整備計画を確実に推進する → 遅滞なく進捗
- 13) 経常収支を黒字にする → 経常収支比率 94.5%

272

2 誇りと働きがいを持てる病院の創造

- 1) 入院の患者満足度を4.50以上とする → 4.52
- 2) 外来の患者満足度を4.10以上とする → 3.97
- 3) 外来患者の診察待ち時間1時間以内の割合を85%以上とする → 82.3%
- 4) 外来患者の会計待ち時間10分以内の割合を85%以上とする → 88.0%
- 5) ハラスメントを撲滅し、心理的安全性を高めることで、働きやすい職場環境をつくる
 - ・職員意識調査の「意欲度」を68.5以上 → 67.9、「満足度」を66.5以上 → 66.8、「上司との関係性」を68.5以上 → 69.8、「職員同士のコミュニケーション」を66.5以上 → 68.1 とする
- 6) すべての職員の時間外勤務を月60時間以下とする → 月60時間以上 平均19.1人/月
- 7) すべての職員が年次有給休暇を5日以上確実に取得し、リフレッシュ休暇7日を取得する → 平均18.1日
- 8) すべての職員にポータルサイトの更なる普及を図る → 87.4%(月1回以上ログイン)

273

3 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

- 1) 優秀な初期研修医のフルマッチを継続する → 14人フルマッチ
- 2) 当院で研修する専攻医を7人以上確保する → 4人
- 3) 初期研修及び専門研修における魅力的な研修プログラムを再構築する → 完了
- 4) 専門医制度基幹施設となる領域数を4領域に増やす → 5領域(整形外科・麻酔科追加)
- 5) すべての職種において教育プログラムを作成・実践し、体系的な人材育成を図る → 完了
- 6) すべての職種において有資格者を増加させる
 - ・Sランク1人、Aランク4人、Bランク6人増加させる → Sランク0人、Aランク0人、Bランク8人
- 7) 病理解剖を上半期6件、下半期6件以上実施する → 上半期3件、下半期2件

274

2026年度 運営目標

1 地域医療への貢献

- 1) 医師充足への一定の道筋を付ける
(総合診療科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、血液・腫瘍内科、救急科)
- 2) がん診療連携拠点病院として更なるがん診療機能の向上を図る
 - ・がん登録件数を1,270件/年以上とする
 - ・悪性腫瘍の手術件数を750件/年以上とする
 - ・外来化学療法件数を4,500件/年(19件/日)以上とする
 - ・放射線照射件数を6,000件/年(25件/日)以上とする
 - ・緩和ケアチーム新規介入件数を300件/年以上とする
 - ・がん遺伝子パネル検査の実施件数を10件/年以上とする
 - ・急性期から在宅への円滑な移行体制を構築する
- 3) 1日当たりの入院患者を425人以上とする
- 4) 1月当たりのECU稼働率を95%以上(14床稼働)とする
- 5) 手術件数(手術室内)を6,700件/年(560件/月)以上とする
 - ・全身麻酔件数を2,500件/年以上とする
 - ・腹腔鏡下又は胸腔鏡下手術件数を450件/年以上とする
 - ・手術支援ロボット(da Vinci)の手術件数を160件/年以上とする

275

1 地域医療への貢献

- 6) 手術件数(血管造影室内)を1,300件/年(110件/月)以上とする
- 7) 紹介件数を25,000件/年(2,085件/月)以上とする
- 8) 人間ドック・健診センターの受診者数を20,500件/年(85件/日)以上とする
 - ・人間ドック55件/日以上、健康診断・協会けんぽ30件/日以上とする
 - ・がんに関連する要精密検査(D判定)対象者の受診率を85%以上とする
- 9) DXの推進により、IT・AIを活用した診療支援の強化及び業務効率化を図る
 - ・スマートフォン及びGoogle Workspaceの活用を促進する
 - ・RPA(Robotic Process Automation: パソコン上の定型業務を自動化する仕組み)を3部門以上に導入し、定型業務の自動化を図る
 - ・説明動画を3業務以上に導入し、患者説明及び職員業務の標準化を図る
 - ・すべての会議・委員会において、ペーパーレスで実施可能な体制を構築する
- 10) 将来に向けた病院整備計画を確実に推進する
- 11) 医業収益を2025年度比10億円増収させ、経常収支の黒字化を達成する

276

2 誇りと働きがいを持てる病院の創造

- 1) 入院の患者満足度を4.55以上とする
- 2) 外来の患者満足度を4.10以上とする
- 3) 外来患者の診察待ち時間1時間以内の割合を85%以上とする
- 4) 外来患者の会計待ち時間10分以内の割合を90%以上とする
- 5) ハラスメントを撲滅し、心理的安全性を高めることで、働きやすい職場環境をつくる
 - ・職員意識調査の「意欲度」を68.5以上、「満足度」を68.0以上、「上司との関係性」を71.0以上、「職員同士のコミュニケーション」を70.0以上とする
- 6) すべての職員の時間外勤務を月60時間以下とする
- 7) すべての職員が年次有給休暇を5日以上確実に取得し、リフレッシュ休暇7日を取得する

277

3 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

- 1) 優秀な初期研修医のフルマッチを継続する
- 2) 当院で研修する専攻医を7人以上確保する
- 3) 初期研修及び専門研修における魅力的な研修プログラムを再構築する
- 4) 専門医制度基幹施設となる領域数を6領域に増やす
- 5) 病院総合医の育成を推進し、10人以上増加させる
- 6) すべての職種において教育プログラムを実践し、体系的な人材育成を図る
- 7) すべての職種において有資格者を増加させる
 - ・Sランク1人、Aランク4人、Bランク6人増加させる
- 8) 病理解剖を上半期6件、下半期6件以上実施する

最良の医療提供と健全経営を実現し、誰からも愛され信頼される病院へ

278



中期目標(2025～2029)

1 地域医療への貢献

- 1) 全科の医師を充足させる
- 2) 救急医療をオール中東遠で支える
- 3) 地域がん診療連携拠点病院として地域完結型のがん診療体制の構築に貢献する
- 4) 脳血管疾患及び循環器疾患の拠点としてさらなる体制強化を図る
- 5) 圏域内の機能分担と連携強化を推進し、将来に向けた地域包括ケアシステムの体制構築に貢献する
- 6) トップクラスの間人ドック機能を確立し、病気の予防・早期発見・早期治療に貢献する
- 7) DXの推進とIT、AIの積極的な活用により、診療支援の強化と業務改善を実現する
- 8) スポーツ医療センターの開設を目指す
- 9) 国際病院評価機構(JCI)の認定取得を目指す
- 10) 経常収支の黒字化を達成し持続可能な病院運営を実現する

279



中期目標(2025～2029)

2 誇りと働きがいを持てる病院の創造

- 1) 市民に愛され信頼される病院になる(患者満足度の向上)
- 2) 職員一人ひとりが接遇力向上の意識を持ち、患者さまに安心と信頼を提供する
- 3) 職員が誇りと働きがいを実感できる環境を創る(職員意欲・満足度の向上)
- 4) 職員間の心理的安全性を高め、組織全体のパフォーマンス向上を図る
- 5) 全ての職種で働き方改革を推進し、A水準を確実に達成する
- 6) 県内屈指の急性期病院として中東遠ブランドを醸成する

3 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

- 1) 優秀な初期研修医のフルマッチを継続的に達成する
- 2) 専攻医(3～5年目の医師)を20名以上にする
- 3) 内科・皮膚科・救急科に加えて、外科・整形外科・小児科・麻酔科の専門研修基幹施設になる
- 4) 全ての職種において教育・研修体制の更なる強化を図り、医療の質向上と専門性の向上を実現する
- 5) 全ての職種において専門資格、認定資格等の有資格者を増やす

280

今後の当院における計画案

1. 呼吸器内科診療の回復 ⇒ 2027年4月から4人体制に
2. 院内のDX化 ⇒ 京都岡本記念病院と連携し、推進
3. 新棟の開設(2027年5月)
 - ⇒ 最新放射線治療器導入(1階)
 - リハビリ科の拡充(2階、3階)
 - 先進的な人間ドック診療(3階、4階)
4. 救急救命センターの拡充(2028年ごろ)
 - ⇒ 救急医療圏拡大への備え(人口減にも考慮必要)
5. 手術室の改築:ハイブリッド手術室(心臓血管疾患対応)
6. 圏域5病院のデータ、電子カルテ情報共有化、共同購入の促進
7. 自由診療の拡充(ドック診療の拡充)
 - ⇒ 予防医療の強化(中学生のピロリ菌検査で胃がん撲滅、がん早期発見、認知症早期発見、生活習慣病・フレイルの予防など)
 - ⇒ 行政とともに国保検診受診率を35から80%までにアップを

281

企業長

決意

- ・ファーストペンギンになることを恐れず、改革、改善を推し進めていく。
- ・今以上に心理的安全性の高い病院を目指す。
- ・地域社会、地域医療の変化を鋭敏に感じ、周辺の医療圏も支えられるよう、柔軟に対応できる準備を怠らない。
- ・日本トップクラスの教育、臨床医療、臨床研究のできる病院を常に目指す。

282

アンケートQRコード

こちらから回答をお願いします！

